

私立獣医科大学における獣医学教育充実に 関する短期改善目標の達成度調査報告書

平成14・15年度

平成17年6月

私立獣医科大学協会

はじめに

私立獣医科大学協会は、社会からの要請に応えられる獣医学教育およびその教育に係る教員、支援スタッフ、施設、設備などハード、ソフト両面での国際水準達成を目指し、構成5大学における教育の現状把握・問題点の抽出・改善目標を設定することを企図して、平成12年6月に相互評価委員会を設置し、各大学で展開されている獣医学教育全般にわたって相互評価を行なった。その作業結果を平成14年6月に『私立獣医科大学における獣医学教育の相互評価報告書』として公表し関係諸機関に配布した。ついで、本協会は、5大学の大学院教育・研究の自己点検・評価に基づいて相互評価を行ない、平成16年8月に『私立獣医科大学大学院における獣医学教育・研究の相互評価報告書』として印刷公表している。

本協会は、獣医学教育の相互評価実施後2年経過した今日、教育・研究環境の持続的発展をはかることを目的に、各大学が設定した短期改善目標の達成状況を調査、検証することとした。それで本協会は、平成16年度6月の総会で調査委員会を設置し、9月の協議会で調査内容を選択・確認し、5大学へ調査書送付、回収、平成17年度6月の総会で各大学からの回答書を取り纏めた調査報告書(案)を承認し、『私立獣医科大学における獣医学教育充実に関する短期改善目標の達成度調査報告書』として印刷公表することとした。

本報告書は、各大学の短期改善目標に関する達成状況の調査、検証であることから、改善・改革進捗状況の調査は社会が大学に何を望んでいるのかを考慮して、大学の教育理念・目的・目標の達成へ向けての改善、大学の個性・特徴の明示や公表方法と周知への取組みについて調査を行なった。また、教育・研究を行なう上で重要な教育・研究・事務組織の改善、獣医学教育の国際化水準へ向けての教育課程の充実、自己点検・評価体制としてのファカルティディベロップメント(FD)委員会の活動について調査を行なった。なお、短期改善目標の達成状況の調査、検証であることから、財政や施設・設備に関しては調査項目からはずしたが、中・長期改善目標の達成度調査の際には取り上げられるであろう。

今回の相互評価は、各大学における短期改善目標への取り組みと進行および達成状況を検証する形成的評価が主体である。本協会としては、いずれ総括評価を行わなければならないが、本報告書が各大学の獣医学教育・研究活動の改革・改善に役立てば幸いである。

終わりに当たり、日常の教育・研究・業務にお忙しい中を調査にご協力いただいた各大学の関係各位、評価作業に当たられた各大学の委員各位に深謝するとともに、この相互評価活動が獣医学教育の充実、発展に寄与することを願うものである。

平成17年6月

私立獣医科大学協会相互評価委員会

委員長 和田 恭 則

目 次

	ページ
I. 趣旨と調査方法	1
1. 趣旨	1
2. 調査委員会の組織体制	1
3. 調査作業計画	1
4. 調査項目	2
II. 各種項目における相互評価	5
1. 教育の理念・目的・目標	5
1) 教育の理念・目的・目標の改善	5
(1-1) 理念・目的・目標の達成へ向けての平成 14 年度、 平成 15 年度における改善	6
(1-2) 大学の個性・特徴の明示	6
2) 公表方法と周知への取組み	7
(2-1) 学内(教職員・学生)への公表	7
(2-2) 学外への公表	8
2. 教育・研究・事務組織	8
1) 教育組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善	8
(1-1) 教育の組織	8
(1-2) 教員の適正配置	9
(1-3) 学生収容数と在籍学生数の比率	10
(1-4) 実験実習の人的補助体制	11
(1-5) 教育活動の評価システムの確立	11
2) 研究組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善	12
(2-1) 研究の組織	12
(2-2) 研究費配分	13
(2-3) 科学研究費補助金	14
(2-4) 研究助成金	15
(2-5) その他の外部資金	15
3) 事務組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善	16
(3-1) 事務の組織	16
(3-2) 職員の適正配置	17

3. 教育課程の充実度	18
1) カリキュラムの改善	18
2) 開講科目数と総単位(時間)数	19
3) 専門科目別授業時間数	20
4) 実習時間数	21
5) 実習用動物の使用頭数	22
6) 実習用動物の代替応用	23
7) 学生による授業評価システム導入	24
(7-1) アンケート	24
(7-2) 任意	25
(7-3) 評価公表	25
(7-4) 改善	26
8) 卒業論文(課題研究)の発表方法	27
(8-1) 全体発表会	27
(8-2) 論文の開示・展示	27
9) 授業科目の年次配当と授業計画(シラバス)の内容と更新状況	28
(9-1) 年次配当の検討	28
(9-2) シラバス毎年更新	28
(9-3) シラバス更新時の対応	29
10) 授業方法の改善状況	30
(10-1) 環境整備の改善	30
(10-2) 教員組織の改善	30
(10-3) 授業方法の改善	31
(10-4) 成績評価の明示や改善	31
11) 単位互換制度	32
(11-1) 国内大学	32
(11-2) 放送大学	33
(11-3) 国外大学	33
12) 他大学および他施設との教育協力体制	34
(12-1) 国内大学	34
(12-2) 国内他施設	34
(12-3) 国外大学	35
13) 卒後教育および生涯教育制度	36
(13-1) 学部・院研究生	36
(13-2) 附属動物病院研修獣医	36
(13-3) 科目等履修生	37
(13-4) 学会研修会講習会	37

14) 社会的ネットワークの状況	38
(14-1) 産学交流	38
(14-2) 地域交流	39
(14-3) 国際交流	39
15) 倫理教育の取組み	40
(15-1) 生命観・倫理観養成の教育	40
(15-2) 職業倫理教育の体系化	41
16) 実践・実務能力を醸成する教育	41
(16-1) ケーススタディを考慮した授業	41
(16-2) ディベートを考慮した授業	42
(16-3) フィールドワークを考慮した授業	43
(16-4) 少人数教育の実施	43
17) 創造的な教育プロジェクトの実施	44
18) 教育満足度調査	45
4. 自己点検・評価体制	46
1) ファカルティディベロップメント (FD) 委員会	46
2) FD委員会活動内容	46
(2-1) 教員相互の評価	46
(2-2) 学生による授業評価	47
5. 教育の国際化対応	48
1) コミュニケーション手段への配慮	48
2) 国外の大学との単位交換	48
3) 国外の大学との遠隔授業	49
6. 獣医師国家試験の合格状況	50
Ⅲ. 全体のとりまとめと今後の課題	51
1. 教育の理念・目的・目標	51
1) 教育の理念・目的・目標の改善	51
2) 公表方法と周知への取組み	51
2. 教育・研究・事務組織	51
1) 教育組織	51
2) 研究組織	52
3) 事務組織	53

3. 教育課程の充実度	53
1) カリキュラムの改善	53
2) 開講科目数と総単位(時間)数	54
3) 専門科目別授業時間数	54
4) 実習時間数	54
5) 実習用動物の使用頭数	54
6) 実習用動物の代替応用	54
7) 学生による授業評価システム導入	54
8) 卒業論文(課題研究)の発表方法	55
9) 授業科目の年次配当と授業計画(シラバス)の内容と更新状況	55
10) 授業方法の改善状況	55
11) 単位互換制度	56
12) 他大学および他施設との教育協力体制	56
13) 卒業後教育および生涯教育制度	56
14) 社会的ネットワークの状況	57
15) 倫理教育の取組み	57
16) 実践・実務能力を醸成する教育	57
17) 創造的な教育プロジェクトの実施	58
18) 教育満足度調査	58
4. 自己点検・評価体制	58
5. 教育の国際化対応	58
6. 獣医師国家試験の合格状況	59
IV. 大学別獣医学教育の充実における短期改善目標の達成度調査資料	
1. 酪農学園大学 獣医学部 獣医学科	61
2. 北里大学 獣医畜産学部 獣医学科	73
3. 日本獣医畜産大学 獣医学部 獣医学科	85
4. 麻布大学 獣医学部 獣医学科	99
5. 日本大学 生物資源科学部 獣医学科	113

I. 趣旨と調査方法

1. 趣旨

私立獣医科大学協会は平成 12 年 6 月に相互評価委員会を設置し、獣医学教育の国際水準達成を目指し、教育の充実・発展をはかることを目的に、各大学間の相互評価を行なった。その結果は、平成 14 年 6 月に開催された同協会の総会で報告して承認され、「私立獣医科大学における獣医学教育の相互評価報告書」として冊子を発行した。

私立獣医科大学協会は相互評価実施後 2 年経過した今日、教育研究環境の持続的発展をはかることを目的に、各大学の短期改善目標の達成状況を調査、検証することとした。

調査項目は、「私立獣医科大学における獣医学教育の相互評価報告書」の相互評価項目に従ったが、短期改善目標の達成度調査であることから、財政や施設・設備に関しては項目からはずした。

2. 調査委員会の組織体制

各大学より推薦された委員によって調査委員会を構成し、委員長は委員の互選によって選出した。なお、委員の補充、追加が生じた場合は、委員会で随時決定することとした。

1) 調査委員(平成 16 年 7 月 1 日選出)

委員長	和田 恭則(ワダ ヤスノリ)	麻布大学 学部長
委員	石原 智明(イシハラ チアキ)	酪農学園大学 教授
	吉川 博康(ヨシカワ ヒロヤス)	北里大学 教授
	清水 一政(シミズ カズマサ)	日本獣医畜産大学 学科主任
	伊東 正吾(イトウ セイゴ)	麻布大学 助教授
	金山 喜一(カナヤマ キイチ)	日本大学 教授

2) 事務局 麻布大学 獣医学部

和田 恭則(ワダ ヤスノリ)
伊東 正吾(イトウ セイゴ)

3. 調査作業計画

アンケート調査により各大学の教育研究環境の現状を調査し、短期改善評価項目を抽出し、改善結果の妥当性、その進捗状況を把握し、短期改善実態を評価する。

調査・報告書作成の日程

平成 16 年 8 月末	調査項目原案を作成し、各委員へ検討を依頼する。
平成 16 年 9 月 10 日	私立獣医科大学協会で協議を願う。
平成 16 年 9 月末	各大学へ調査を依頼する。
平成 16 年 11 月末	各大学からの回答を得る。回答は各委員へ配信する。
平成 17 年 1 月末	事務局は回答内容から改善結果等評価整理する。
平成 17 年 2 月末	各委員が改善結果等評価を確認整理する。
平成 17 年 3 月末	短期改善報告の原稿として仕上げる。
平成 17 年 6 月末	総会報告、承認後、印刷物として仕上げる。

4. 調査項目

改善、改革進捗状況の調査項目は以下のとおりである。

1. 教育の理念・目的・目標

1) 教育の理念・目的・目標の改善

(1-1) 理念・目的・目標の達成へ向けての平成 14 年度、平成 15 年度における改善

(1-2) 大学の個性・特徴の明示

2) 公表方法と周知への取組み

(2-1) 学内(教職員・学生)への公表

(2-2) 学外への公表

2. 教育・研究・事務組織

1) 教育組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

(1-1) 教育の組織

(1-2) 教員の適正配置

(1-3) 学生収容数と在籍学生数の比率

(1-4) 実験実習の人的補助体制

(1-5) 教育活動の評価システムの確立

2) 研究組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

(2-1) 研究の組織

(2-2) 研究費配分

(2-3) 科学研究費補助金

(2-4) 研究助成金

(2-5) その他の外部資金

3) 事務組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

(3-1) 事務の組織

(3-2) 職員の適正配置

3. 教育課程の充実度 平成 14 年 6 月の横断的評価記載内容における改善、 改革進捗状況、特に獣医学教育の国際化水準へ向けての改善

1) カリキュラムの改善

2) 開講科目数と総単位(時間)数

3) 専門科目別授業時間数

4) 実習時間数

5) 実習用動物の使用頭数

6) 実習用動物の代替応用

7) 学生による授業評価システム導入

(7-1) アンケート

(7-2) 任意

(7-3) 評価公表

(7-4) 改善

8) 卒業論文(課題研究)の発表方法

(8-1) 全体発表会

(8-2) 論文の開示・展示

- 9) 授業科目の年次配当と授業計画(シラバス)の内容と更新状況
 - (9-1) 年次配当の検討
 - (9-2) シラバス毎年更新
 - (9-3) シラバス更新時の対応
 - 10) 授業方法の改善状況
 - (10-1) 環境整備の改善
 - (10-2) 教員組織の改善
 - (10-3) 授業方法の改善
 - (10-4) 成績評価の明示や改善
 - 11) 単位互換制度
 - (11-1) 国内大学
 - (11-2) 放送大学
 - (11-3) 国外大学
 - 12) 他大学および他施設との教育協力体制
 - (12-1) 国内大学
 - (12-2) 国内他施設
 - (12-3) 国外大学
 - 13) 卒後教育および生涯教育制度
 - (13-1) 学部・院研究生
 - (13-2) 附属動物病院研修獣医
 - (13-3) 科目等履修生
 - (13-4) 学会研修会講習会
 - 14) 社会的ネットワークの状況
 - (14-1) 産学交流
 - (14-2) 地域交流
 - (14-3) 国際交流
 - 15) 倫理教育の取組み
 - (15-1) 生命観・倫理観養成の教育
 - (15-2) 職業倫理教育の体系化
 - 16) 実践・実務能力を醸成する教育
 - (16-1) ケーススタディを考慮した授業
 - (16-2) ディベートを考慮した授業
 - (16-3) フィールドワークを考慮した授業
 - (16-4) 少人数教育の実施
 - 17) 創造的な教育プロジェクトの実施
 - 18) 教育満足度調査
-
4. 自己点検・評価体制
 - 1) ファカルティディベロップメント(FD)委員会
 - 2) FD 委員会活動内容
 - (2-1) 教員相互の評価
 - (2-2) 学生による授業評価

5. 教育の国際化対応

- 1) コミュニケーション手段への配慮
- 2) 国外の大学との単位交換
- 3) 国外の大学との遠隔授業

6. 獣医師国家試験の合格状況

Ⅱ. 各種項目における相互評価

1. 教育の理念・目的・目標

1) 教育の理念・目的・目標の改善

平成14年6月の相互評価報告書において、各大学ともに教育の理念・目標は掲げられており、教育の主眼は高度専門職業人としての獣医師養成にある点で一致している。そして、各大学は建学の精神および社会的使命から教育の理念・目標に教育研究の基本姿勢、人材養成の基本姿勢を明示している。さらに、各大学は教育の理念・目標達成へ向けて、大学の整備と教育効果の向上に努力すべきと考える。そこで、各大学の教育の理念・目的・目標の達成へ向けて、平成14年度および平成15年度における改善点、大学の個性・特徴の明示を調査した。

酪農学園大学、北里大学は、教育の理念・目的・目標、大学の個性・特徴の明示を設定済みとのことで、改善なしの報告であった。

日本獣医畜産大学は、教育理念に「敬讓と協調」「慈愛と人倫」を育む科学の創生を培い、新世紀における生命科学・環境科学・食品時代の開拓者として総合的な生命科学の知と技を練磨するとともに人間愛・動物愛の豊かな人材育成を柱に掲げ、この考え方に沿った教育目標が掲げられている。獣医学教育や小動物に対する社会的変化に対応するため、平成15年から獣医学部・獣医学科とし、これに応用生命学部を加えた2学部とするなどの改善を行った。さらに、大学の個性・特徴の明示として、大学の立地性などにより一部制約はあるが、実験・実習を重視し、各科目間との有機的連携を図っている。低学年における大動物の体験実習、高学年における伴侶動物と大・中動物の疾病を実際に診断・治療し、その成果を検討し合う「臨床総合実習」は特徴ある内容といえる。

麻布大学は、建学の精神に「学理の討究と誠実なる実践」とあり、この校風を受け継ぎ、人と動物との共存及び人と自然環境との調和を理念に、次のとおり目標を掲げている。1. 獣医学教育と社会的責任の認識。2. 国際的視野の開発と養成。3. 食料の安定供給と安全性の確保の認識。4. 環境保全の重要性の認識。5. 生命科学の理解と応用する能力の開発。6. 生命・社会倫理観と伴侶動物獣医療の理解と具体的に示した。さらに、獣医学教育の国際化へ向けて平成15年度入学生からカリキュラムを変更し、専門を5系で教育することと5年次に動物病院を中心とした小動物臨床実習、産業動物臨床実習、それから環境毒性学実習のローテーション教育を行っていることから、特徴ある獣医学教育への改善と個性・特徴の明示が伺える。

日本大学は、人類の福祉と生命科学の発展に貢献できる人材を育成・輩出することを主な目的として、教育・研究指導を行っている。この目的・目標の達成に向けて、動物病院の増築並びに動物医科学研究センターの新築を決定し、平成17年3月末の完成に向けて建設中である。また、獣医学科の理念・目的・目標を教育に十分反映させるため、平成16年4月入学の学生から教育カリキュラムを変更した。また、総合大学・総合学部にも所属する獣医学科の個性・特徴等は、入試案内パンフレット、ホームページ、受験生向けの雑誌並びにオープンキャンパスや進学相談会を行い、教育内容の改善と個性・特徴の明示が伺える。

(1-1) 理念・目的・目標の達成へ向けての平成 14 年度、平成 15 年度における改善

大学	平成 14 年度、15 年度における改善、改革進捗状況
酪農学園大学	理念・目的・目標は設定済み 変更なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	本学の教育理念に「敬讓と協調」「慈愛と人倫」を育む科学の創生を培い、新世紀における生命科学・環境科学・食品時代の開拓者として総合的な生命科学の知と技を練磨するとともに人間愛・動物愛の豊かな人材育成を柱に掲げ、この考え方に沿った教育目標が掲げられている。獣医学教育や小動物に対する社会的変化に対応するため、平成 15 年から獣医学部・獣医学科とし、これに応用生命学部を加えた 2 学部とするなどの改善を行った。
麻布大学	本学の建学の精神は「学理の討究と誠実なる実践」である。この校風を受け継ぎ、人と動物との共存及び人と自然環境との調和を理念に次のとおり目標を掲げる。1. 獣医学教育と社会的責任の認識。2. 国際的視野の開発と養成。3. 食料の安定供給と安全性の確保の認識。4. 環境保全の重要性の認識。5. 生命科学の理解と応用する能力の開発。6. 生命・社会倫理観と伴侶動物獣医療の理解。
日本大学	獣医学科(以下本学科)は、人類の福祉と生命科学の発展に貢献できる人材を育成・輩出することを主な目的として教育・研究指導を行っている。この目的・目標の達成に向けて、動物病院の増築並びに動物医科学研究センターの新築を決定し、平成 17 年 3 月末の完成に向けて建設中である。また、本学科の理念・目的・目標を教育に十分反映させるため、平成 16 年 4 月入学の学生から教育カリキュラムを変更した。

(1-2) 大学の個性・特徴の明示

大学	変更内容
酪農学園大学	個性・特徴は設定済み 変更なし
北里大学	変更なし
日本獣医畜産大学	大学の立地性などにより一部制約はあるが、実験・実習を重視し各科目間との有機的連携を図っている。低学年における大動物の体験実習、高学年における伴侶動物と大・中動物の疾病を実際に診断・治療し、その成果を検討し合う「臨床総合実習」は特徴ある内容といえる。
麻布大学	本学は獣医学教育の国際化へ向けて平成 15 年度入学生からカリキュラムを変更し、専門を 5 系で教育することと 5 年次に動物病院を中心とした小動物臨床実習、産業動物臨床実習、それから環境毒性学実習のローテーション教育の開始を明示した。
日本大学	総合大学・総合学部にも所属する本学科の個性・特徴等は、入試案内パンフレット、ホームページ、受験生向けの雑誌並びにオープンキャンパスや進学相談会を通して明示している。

	酪農学園 大学	北里大学	日本獣医 畜産大学	麻布大学	日本大学
理念・目的・目標の達成 への努力	C	C	A	A	A
大学の個性・特徴の明示	C	C	A	A	B

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

2)公表方法と周知への取組み

たとえ教育の理念・目的・目標はあっても、そのことを学内外へ広報媒体を使い、公表し、大学の存在意義を社会へ問わなければならない。そこで、教職員・学生および学外への公表の状況を調査した。

酪農学園大学、北里大学は、教育の理念・目的・目標、大学の個性・特徴を大学刊行物、ホームページでの広報などこれまでと同じように実施し、変更なしとの報告であった。

日本獣医畜産大学は、理念・目的・教育目標等を教職員、学生、受験生を含む社会一般の人々に対して公的な刊行物(自己点検・評価報告書)やホームページ、パンフレット等によって公表、周知している。

麻布大学は、学外、学内ともに、シラバス、大学のホームページ、大学パンフレットで広報、周知させている。

日本大学は、学部案内、学則(抜刷)及び学部要覧の配布、またホームページの公開によって、教職員並びに学生に教育の理念・目的・目標の周知を図っている。また学部案内やホームページに獣医学科の学術研究上のトピクスを掲載し、公表内容の充実を図っている。学外へは、学部案内及び学科ホームページによって、教育の理念・目的・目標を学外へ積極的に公表している。特に、ホームページの充実に力を注いでおり、作成を専門業者に委託している。その予算は平成14年度から計上し、さらに、オープンキャンパスにおける本学科紹介ポスターの制作についても平成15年度から予算化し、積極的に社会への広報を行っている。

(2-1)学内(教職員・学生)への公表

大 学	変更内容
酪農学園 大学	変更なし
北里大学	変更なし
日本獣医 畜産大学	理念・目的・教育目標等を教職員、学生、受験生を含む社会一般の人々に対して公的な刊行物やホームページ等によって周知している。
麻布大学	シラバス、大学のホームページ、大学パンフレットで周知させている。
日本大学	本学科は、学部案内、学則(抜刷)及び学部要覧の配布、またホームページの公開によって、教職員へ並びに学生に教育の理念・目的・目標の周知を図っている。また学部案内やホームページに本学科の学術研究上のトピクスを掲載し、公表内容の充実を図っている。

(2-2) 学外への公表

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし
北里大学	有
日本獣医畜産大学	ホームページ、パンフレット、刊行物(自己点検・評価報告書)等で公表している。
麻布大学	シラバス、大学のホームページ、大学パンフレットで周知させている。
日本大学	本学科は、学部案内及び学科ホームページによって、教育の理念・目的・目標を学外へ積極的に公表している。特に、本学科ではホームページの充実を注いでおり、作成を専門業者に委託している。その予算は平成14年度から計上し、さらに、オープンキャンパスにおける本学科紹介ポスターの制作についても平成15年度から予算化が図られている。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
学内への公表	C	C	B	B	A
学外への公表	C	C	B	B	A

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

2. 教育・研究・事務組織

平成14年6月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1) 教育組織の平成14年度、平成15年度における改善

(1-1) 教育の組織

各大学は、獣医学教育の充実、目標として獣医学教育水準の国際水準への到達を掲げ、努力することとなった。教育組織、教員の適正配置として、各大学は平成14年6月の相互評価報告書に自己評価の中で、それぞれ対応が必要なことを記載している。

酪農学園大学は、その相互評価報告書に、臨床系、教育病院の充実が必要とあるが、平成14・15年度において改善されず、平成16年度に臨床系教室の再編と臨床系教授1人の増員を予定している。とある。

北里大学は、その相互評価報告書に臨床教育の教材、教育病院の増改築と設備機器の充実が必要とある。平成14年度および15年度には改善がない。

日本獣医畜産大学は、その相互評価報告書に動物医療センター建設計画が進行中とあり、臨床教育の充実を必要としている。今回の調査では、平成16年度より臨床教育の充実を目的とし、現行の臨床系教科の比率35%、非臨床系教科の比率65%であるところを、臨床系教科の比率を50%に増加するようにしたとあり、改善、改革の努力がみられる。

麻布大学は、その相互評価報告書に、臨床センターが竣工し、臨床教育の基盤整備中とある。今回の調査では、獣医学の専門教育を基礎獣医学系、臨床獣医学系、応用獣医学系の3系で行なってきたが、獣医学教育が国際化に対応できるように、人と動物の共存に貢献するという社会の要請に答えられるように獣医学教育を行うために、基礎獣医学系、病態獣医学系、生産獣医学系、臨床獣医学系、環境獣医学系の5系に構築し、これらの分野を教育単位として機能的、効果的に組織したとあることから、改善がみられる。

日本大学は、相互評価報告書に、教育病院の充実が必要と記載しており、平成16年度は

動物病院の拡張工事を計画している。

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし ただし、平成 16 年度より臨床系教室を再編
北里大学	平成 16 年度から変更
日本獣医畜産大学	動物医療センターが平成 15 年 6 月に竣工し、臨床系教員は 18 名に若干増え臨床教育の基盤整備が進行中である。専門教育スタッフは 59 名であり、さらなる教員・支援者数の増員が必要であると考えている。
麻布大学	これまで獣医学の専門教育は基礎獣医学系、臨床獣医学系、応用獣医学系の 3 系で行なってきたが、獣医学教育が国際化に対応できるように、人と動物の共存に貢献するという社会の要請に答えられるように獣医学教育を行うために、基礎獣医学系、病態獣医学系、生産獣医学系、臨床獣医学系、環境獣医学系の 5 系に構築し、これらの分野を教育単位として機能的、効果的に組織した。
日本大学	平成 14 年度から本学科を構成している基礎・臨床・応用の 3 部門に、外国人非常勤講師を 3 名委嘱し、国際化に向けた獣医学教育とその教育組織の充実を図っている。さらに、平成 15 年度には中国の研究施設における本学科学生への技術教育とその履修単位取得に関する協定の締結に向けて準備がなされた。

(1-2) 教員の適正配置

大学基準協会の基準教員数は 72 人で、専任教員が適正に配置され、教育効果が上げられる配置になっていることが必要である。

酪農学園大学は、その相互評価報告書に、教員、特に臨床系教員の増員と教育病院の教員・支援スタッフの充実が必要とあるが、平成 14 年度および 15 年度において改善されず、平成 16 年度に臨床系教室の再編と臨床系教授 1 人の増員を予定しているとある。

北里大学は、その相互評価報告書に、教員枠 56 名が承認されたが、さらに充実を検討中とあるが、平成 14 年度および 15 年度は改善がなく、平成 16 年度に教員 57 人へ向けて対応中とある。

日本獣医畜産大学は、動物医療センターが平成 15 年 6 月に竣工し、臨床系教員は 18 名に若干増え臨床教育の基盤整備が進行中である。専門教育スタッフは 59 名であり、さらなる教員・支援者数の増員が必要であると考えているとあることから、改善の努力を認める。

麻布大学は、その相互評価報告書に、臨床センターが竣工し、臨床教育の基盤整備中。専門教育スタッフ 57 名であり、教員の増員必要とある。今回の調査では、教員の適正配置に関する検討はない。

日本大学は、その相互評価報告書に、教員の増員と教育病院の充実が必要とある。今回の報告では、平成 14 年度から本学科を構成している基礎・臨床・応用の 3 部門に、外国人非常勤講師を 3 名委嘱し、国際化に向けた獣医学教育とその教育組織の充実を図っている。さらに、平成 15 年度には中国の研究施設における本学科学生への技術教育とその履修単位取得に関する協定の締結に向けて準備がなされた。さらに、本学科では教員の 55 名体制に向けて、公募等により適正な教員数の確保に努めてはいるが十分な成果を上げるには至っていない。なお、本学科では女子学生の占める割合が増加しており、女性教員の採用・配置が課題であったが、平成 14 年 4 月 1 日より女性教員を採用し、臨床系分野に配置した

とあり、改善の努力がみられる。

教員数は大学基準協会の基準、72人に達している大学はなく、今後教員数の増加が望まれる。さらに、各大学とも学生の志向や女子学生の増加から臨床系教員の増加、女性教員の増加を考慮する必要が出ており、今後積極的に対応することが必要と考える。

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし ただし、平成16年度に臨床系教授1名を増員
北里大学	平成16年度から変更、現在57名に向け対応中
日本獣医畜産大学	平成16年度より臨床教育の充実を目的とし、現行の臨床系教科の比率35%、非臨床系教科の比率65%であるところを、臨床系教科の比率を50%に増加するようにした。これに伴って専任教員の適正配置に努め臨床系教員の増員を図っている。
麻布大学	変更なし
日本大学	本学科では教員の55名体制に向けて、公募等により適正な教員数の確保に努めてはいるが十分な成果を上げるには至っていない。なお、本学科では女子学生の占める割合が増加しており、女性教員の採用・配置が課題であったが、平成14年4月1日より女性教員を採用し、臨床系分野に配置した。

(1-3) 学生収容数と在籍学生数の比率

各大学は在籍学生数が学生収容数の1.3倍以内であるが、酪農学園大学と北里大学はその比率を1.2倍とし、学生数の適正化に努めている。他大学は1.3倍であり、学生数の適正化に努める必要があるとし、日本獣医畜産大学は徐々に1.2倍と学生数を減少させており、日本大学は1.15倍以内を目標に学生数の適正化に努めていることから評価できる。しかし、麻布大学は学生数の適正化に努めておらず今後の検討が待たれる。

教育効果の面からは少ない学生と多くの教員が望ましいのであるが、私学としては経営の面もあり、適正化は難しい。

調査項目	年度	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
学生収容数	14	720	720	480	720	720
	15	720	720	480	720	720
入学定員	14	120	120	80	120	120
	15	120	120	80	120	120
教員数	14	50	50	57	61	44
	15	50	50	58	60	48
支援者数	14	54	18	36	23	12
	15	54	19	40	28	17
在籍学生数	14	859*	866	625	930	928
	15	874	867	623	921	906
在籍数/収容数	14	1.19	1.20	1.30	1.29	1.29
	15	1.21	1.20	1.30	1.28	1.26

* 5月1日現在

(1-4) 実験実習の人的補助体制

各大学は実験実習に教員数の増加をはかることが強く望まれる。そのなかで、各大学は、実験実習の人的補助としてティーチング・アシスタント(TA)制を設け、TAとして大学院生を採用している。

酪農学園大学は、TAに関し変更は無い。

北里大学は、TAの増員をはかっている。

日本獣医畜産大学は、TA制を引き続き維持している。

麻布大学はTA制度を利用し、実験実習の補助体制を行っている。

日本大学は、大学院学生をTAとして、平成14年12名、15年17名採用し、学部学生に対する実験・実習等における教育支援体制の充実を図っている。

TAは各大学とも学生の実習の補助としては受講している側の学生からの評判もよく、各大学はその充実に努力している。

大学	変更内容
酪農学園大学	ティーチング・アシスタント制 変更なし
北里大学	ティーチング・アシスタントの増員
日本獣医畜産大学	人的補助体制は引き続き維持している。
麻布大学	ティーチング・アシスタント制度を利用し、実験実習の補助体制を行なっている。
日本大学	大学院学生をティーチング・アシスタント(TA)として、平成14年は12名、15年は17名を採用し、学部学生に対する実験・実習等における教育支援体制の充実を図っている。

(1-5) 教育活動の評価システムの確立

平成14年6月の相互評価報告書において、各大学は教育活動の評価システムを持っていないので、評価システムの確立をすることが述べられている。そこで、今回の短期改善調査項目とした。

酪農学園大学は、教育活動の評価システムが整理されていない。

北里大学は、教育活動の評価システムの変更があるとしているが、具体的記載はない。

日本獣医畜産大学は、従来実施してきた学生による授業評価のあり方を見直し、今後評価結果の集計データを整理し、各教員の自己点検・評価を促すこととしている。

麻布大学は、変更なしとしている。

日本大学は、学生による授業評価アンケートは全教員が実施し、各教員の教育改善に利用している。この授業評価アンケートの実施率の向上には一層努力しており、ほぼ全教員が実施しているが、本システムのさらなる活用については現在学内委員会で検討中としている。

大学	変更内容
酪農学園大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	従来実施してきた学生による授業評価のあり方を見直し、今後評価結果の集計データを整理し、各教員の自己点検・評価を促すこととしている。
麻布大学	変更なし
日本大学	学生による授業評価アンケートは全教員が実施し、各教員の教育改善に利用している。この授業評価アンケートの実施率の向上には一層努力しており、ほぼ全教員が実施しているが、本システムのさらなる活用については現在学内委員会で検討中である。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
教育の組織	C	C	B	A	C
教員の適正配置	C	C	B	C	B
学生収容数と在籍学生数の比率	B	B	C	C	C
実験実習の人的補助体制	B	B	B	B	B
教育活動の評価システムの確立	C	C	B	C	B

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

2) 研究組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

(2-1) 研究の組織

研究組織の充実、教育研究を行う上で十分な施設、設備、機器があることであるが、短期改善度調査であることから、各教員が研究活動を高め、成果を教育に反映させるものとして、研究資金に関して調査した。

酪農学園大学は、変更なし。ただし、臨床系教育組織を平成 16 年度に改組とある。

北里大学は記載ない。

日本獣医畜産大学は、動物医療センター、生命科学共同研究施設の開設、さらにはハイテクリサーチセンターの設置が予定されており、相互協力による高度の研究体制が確立されつつある。

麻布大学は変更なし。

日本大学は、本学科に基礎を置く大学院獣医学研究科の教員が主体となって、学術フロンティア共同研究プロジェクトを立案し、文部科学省平成 16 年度私立大学学術研究高度化推進事業に申請した。本プロジェクトは選定されており、現在、その研究拠点となる動物医科学研究センターを新設中である。完成時には、教育・研究組織の一層の充実が図られるとしている。

大 学	変更内容
酪農学園 大学	変更なし ただし、臨床系教育組織を平成 16 年度に改組
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	動物医療センター、生命科学共同研究施設の開設、さらにはハイテクリサーチセンターの設置が予定されており、相互協力による高度の研究体制が確立されつつある。
麻布大学	変更なし
日本大学	本学科に基礎を置く大学院獣医学研究科の教員が主体となって、学術フロンティア共同研究プロジェクトを立案し、文部科学省平成 16 年度私立大学学術研究高度化推進事業に申請した。本プロジェクトは選定されて、現在、その研究拠点となる動物医科学研究センターが新設中である。完成すれば本学科の一層の教育・研究組織の充実が図られる。

(2-2) 研究費配分

酪農学園大学は、平成 15 年度より、傾斜配分として 5 万円を上限に上乗せしている。

北里大学は、変更なしとしている。

日本獣医畜産大学は、平成 16 年度からハイテクリサーチセンター(グループ)へ共同研究費を配分する予定である。

麻布大学は、変更なしとしている。

日本大学は、研究費が全教員(助手以上)に等分に配分され、1 人当たりの研究費は 106 万円であり、研究環境の充実が図られているとしている。

大 学	変更内容
酪農学園 大学	平成 15 年度より、傾斜配分として 5 万円を上限に上乗せ
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	平成 16 年度からハイテクリサーチセンター(グループ)へ共同研究費を配分する予定である。
麻布大学	変更なし
日本大学	研究費は、本学科の全教員(助手以上)に等分に配分され、1 人当たりの研究費は 106 万円であり、研究環境の充実が図られている。

単位:万円

		年度	酪農学園 大学	北里大学	日本獣医 畜産大学	麻布大学	日本大学
個人	教員単位 (1人当り)	14	50	—	0	100	106
		15	50	—	0	100	106
	教授	14	—	25	0	—	—
		15	—	25	0	—	—
	助教授	14	—	20	0	—	—
		15	—	20	0	—	—
	講師	14	—	20	0	—	—
		15	—	20	0	—	—
	助手	14	—	20	0	—	—
		15	—	20	0	—	—
傾斜配分 /人	14	—	—	—	—	—	
	15	5	—	—	—	—	
グループ	講座・研究 室		—	20	—	—	—

(2-3) 科学研究費補助金

平成 11・12 年度は、酪農学園大学における補助金交付が約半数の教員にあり、平成 14・15 年度における交付状況も同様であった。しかし、他大学の交付割合は低く、他大学は外部資金導入に関し、組織的取組みを確立する必要があると考えられる。

酪農学園大学は、変更なしとある。

北里大学は、記載なしである。

麻布大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、全教員へ申請を促し、採択率の向上に努めている。

日本大学も科学研究費補助金の獲得率の増加を図るため、各教員は積極的に科学研究費補助金に申請する努力を図っている。

今回の調査による相互評価は、採択率が 5 大学の 2 年間の平均値 28.5% (112/393 件) を上まわっている大学を A、平均値以下で 20% 台である大学を B、19% 以下の大学を C とした。

大学	変更内容
酪農学園 大学	変更なし
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	全教員へ申請を促し、採択率の向上に努めている。
麻布大学	変更なし
日本大学	本学科では科学研究費補助金の獲得率の増加を図るため、各教員は積極的に科学研究費補助金に申請する努力を図っている。

	年度	酪農学園 大学	北里大学	日本獣医 畜産大学	麻布大学	日本大学
採択数/申請数 採択率	14	19/39 48.7%	14/55 25.5%	8/30 26.7%	7/39 17.9%	11/24 45.8%
	15	15/32 46.9%	13/52 25.0%	9/47 19.2%	7/45 15.6%	9/30 30.0%
評価		A	B	B	C	A

A:採択率が全大学の平均値 28.5%以上、 B:平均値以下で 20%台、 C:19%以下

(2-4) 研究助成金

酪農学園大学、北里大学、日本獣医畜産大学、麻布大学は、変更なしであるが、日本大学は研究の推進を図るため学内の研究助成金の獲得について、積極的な応募を行っているとしている。今回の調査による相互評価は、2年間の採択率が5大学の平均値 54.5% (85/156 件)を上まわっているのがA、平均値以下で 40%台をB、39%以下をCとした。

大学	変更内容
酪農学園 大学	変更なし
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	記載なし
麻布大学	変更なし
日本大学	本学科教員は研究の推進を図るため学内の研究助成金の獲得について、積極的な応募を行っている。

	年度	酪農学園 大学	北里大学	日本獣医 畜産大学	麻布大学	日本大学
採択数/申請数 採択率	14	13/35 37.1%	7/17 41.2%	9/9 100%	13/15 86.7%	5/10 50.0%
	15	2/21 9.5%	12/16 75.0%	7/7 100%	10/17 58.8%	7/9 77.8%
評価		C	A	A	A	A

A:採択率が全大学の平均値 54.5%以上、 B:平均値以下で 40%台、 C:39%以下

(2-5) その他の外部資金

酪農学園大学、北里大学、日本獣医畜産大学、麻布大学は、変更なしであるが、日本大学は、学外からの競争的外部資金の導入についても、本学科教員は積極的に応募を行っているとしている。今回の調査による相互評価は、採択数が5大学の2年間の平均値 17 件を上まわっているのがA、平均値以下で 10 件台をB、9 件以下をCとした。

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし
北里大学	*受託研究
日本獣医畜産大学	記載なし
麻布大学	変更なし
日本大学	学外からの競争的外部資金の導入についても、本学科教員は積極的に応募を行っている。

	年度	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
採択数/申請数	14	1/1	22/22	1/1	47/47	21/21
	15	2/2	19/19	2/2	39/39	16/16
評価		C	A	C	A	A

A:採択数が全大学の平均値 17 件以上、 B:平均値以下 10 件台、 C:9 件以下

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
研究の組織	C	C	B	C	B
研究費配分	B	C	B	C	B
科学研究費補助金	A	B	B	C	A
研究助成金	C	A	A	A	A
その他の外部資金	C	A	C	A	A

A:改善、 B:改善努力、 C:ほとんどなし

3) 事務組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

(3-1) 事務の組織

大学は、効果的な教育をするために教育、研究、事務組織が適切に組織化され、運営されなければならない。そこで、事務組織に関しても改善目標を設定し、対応する必要がある。

酪農学園大学は、事務組織に関し変更なしとの報告である。

北里大学は、事務組織に関し変更なしとの報告である。

日本獣医畜産大学は、教育・研究活動を支援する上で適切な事務組織を整備しており、教学組織との連携もとられ、これをサポートする体制も機能している。また職員の研修会などへの参加も積極的に行われ、人事評価制度も導入されており、人材の育成にも努めているとの調査結果である。

麻布大学は、平成 15 年 4 月 1 日から、今後強化すべき学園の業務(企画、施設整備、学生募集、広報等)に対応すると共に、課等間の事務分掌を整理したとの調査結果である。

日本大学は、懸案であった学科事務室を設置し、事務の組織化を図った。学科事務室に副手 1 名および臨時職員 1 名を配置し、教員の事務的負担の軽減に努めているとの調査結果である。

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし ただし、新病院開設に伴い平成 16 年度より病院事務長を置く
北里大学	なし
日本獣医畜産大学	教育・研究活動を支援する上で適切な事務組織を整備しており、教学組織との連携もとられ、これをサポートする体制も機能している。また職員の研修会などへの参加も積極的に行われ、人事評価制度も導入されており、人材の育成にも努めている
麻布大学	平成 15 年 4 月 1 日から、今後強化すべき学園の業務(企画、施設整備、学生募集、広報等)に対応すると共に、課等の間の事務分掌を整理した。
日本大学	本学科では懸案であった学科事務室を設置し、事務の組織化を図った。

(3-2)職員の適正配置

大学は、効果的な教育をするために教育、研究、事務組織が適切に組織化され、運営されなければならない。そこで、事務組織に関しても改善目標を設定し、対応する必要がある。いっぽう、職員数は各大学とも少ない職員で組織運営を行っており、職員の適正数の検討は今後の課題と考える。

酪農学園大学は、新動物病院の開設に伴い平成 16 年度から病院事務長 1 人を置く予定としている。

北里大学は、変更なしとの報告である。

日本獣医畜産大学は、職員の配置を平成 15 年度から獣医畜産学部を改組して 2 学部 3 学科となり、事務組織は総合的に運営されているが、学部及び研究科の関係業務を一括して事務部が担当しており、円滑な運営を行うためにも職員の増員が望まれるとの調査結果である。

麻布大学は、平成 15 年 4 月 1 日から、現在の課等の数を増加することなく、「管理の幅」を適正化する。このため、課等の規模の適正化(4~10 人程度)、課長等の職務分担の均等化を図ったとの調査結果である。

日本大学は、懸案であった学科事務室を設置し、事務の組織化を図った。学科事務室に副手 1 名および臨時職員 1 名を配置し、教員の事務的負担の軽減に努めているとの調査結果である。

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし ただし、平成 16 年度より病院事務長 1 名を新たに配置
北里大学	なし
日本獣医畜産大学	本学は平成 15 年度から獣医畜産学部を改組して 2 学部 3 学科となり、事務組織は総合的に運営されているが、学部及び研究科の関係業務を一括して事務部が担当しており、円滑な運営を行うためにも職員の増員が望まれる。
麻布大学	平成 15 年 4 月 1 日から、現在の課等の数を増加することなく、「管理の幅」を適正化する。このため、課等の規模の適正化(4~10 人程度)、課長等の職務分担の均等化を図った。
日本大学	学科事務室に副手 1 名および臨時職員 1 名を配置し、教員の事務的負担の軽減に努めている。

	酪農学園 大学	北里大学	日本獣医 畜産大学	麻布大学	日本大学
事務組織	C	C	B	A	B
職員の適正配置	C	C	C	A	A

A:改善、B:改善努力、C:ほとんどなし

3. 教育課程の充実度

平成 14 年 6 月の相互評価報告書では、各大学が獣医学教育の国際水準到達へ向けて開講科目と単位について検証がなされていないと判断している。そこで、平成 14 年度および平成 15 年度の改善、改革進捗状況を調査した。

1)カリキュラムの改善

酪農学園大学は、平成 13 年度開設カリキュラムより、総合獣医および総合臨床実習として漸次的改善をねらうとしている。

北里大学は、特に記載事項なしである。

日本獣医畜産大学は、前回改訂(平成 9 年度)のカリキュラム実施中のため、大幅な変更なし。ただし、高等学校で履修が不十分であった、理科系科目(生物学、化学、物理学)及びコンピュータ技術については、それぞれそれを補うため、平成 15 年度より新たに入門講座(生物学入門、化学入門、物理学入門、獣医のためのインターネット入門)を設けた。なお、平成 16 年度より大幅なカリキュラム改訂を行い、実施する予定である。

麻布大学は、平成 15 年度入学者から、これまで基礎獣医学系、臨床獣医学系、応用獣医学系の 3 系で行なってきた教育を、獣医学教育の国際化並びに人と動物の共存に貢献するという社会の要請にあった獣医学教育を行うために、基礎獣医学系、病態獣医学系、生産獣医学系、臨床獣医学系、環境獣医学系の 5 系にし、機能的、効果的カリキュラムを構築した。

日本大学は、獣医学教育の国際化、国際基準を考慮した臨床教育の充実に取り組み、約 2ヶ年を費やしてカリキュラムの改訂を検討した。平成 16 年入学生から全学生に付属動物病院における臨床ローテーション実習を必修とした。さらに、基礎・臨床・応用の各部門に毎年 3 名の外国人非常勤講師を採用し、分担講義を実施することによって教育の充実を図っている。

大学	変更内容
酪農学園大学	平成 13 年度開設カリキュラムより、総合獣医および総合臨床実習として漸次的改善をねらう
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	前回改訂(平成 9 年度)のカリキュラム実施中のため、大幅な変更なし。ただし、高等学校で履修が不十分であった、理科系科目(生物学、化学、物理学)及びコンピュータ技術については、それぞれそれを補うため、平成 15 年度より新たに入門講座(生物学入門、化学入門、物理学入門、獣医のためのインターネット入門)を設けた。なお、平成 16 年度より大幅なカリキュラム改訂を行い、実施する予定である。すなわち、実践的な専門教育を充実させ、基礎的な実証分野を含めた基礎、応用科目を 4 年次までにほぼ終了し、5, 6 年次には実践的な実証分野及び応用分野を配置する。1 年次にはアーリー・エクスポージャーとして、臨床体験実習を設置し、3, 4 年次では内科学、外科学を臓器別にした、より具体的な講義名称で区分する。5 年次後期及び 6 年次前期では、実習を主体とし、小人数のチームを作成し、各チームが離合集散しながら付属病院、附属牧場、臨床病理検査、公衆衛生施設、病院インターンシップなどでラウンドする実習形態とする。また、6 年次学生が本実習中、1 年次学生のアーリー・エクスポージャーの指導も併せて行うことも盛り込む予定である。また、従来の選択必修科目の内容を大幅に変更し、より実践的な獣医眼科神経病学、獣医歯科学、獣医救急医療学などを配することになっている。
麻布大学	平成 15 年度入学者適用のカリキュラムの変更
日本大学	本学科では獣医学教育の国際化、国際基準を考慮した臨床教育の充実に取り組み、約 2 ヶ年を費やしてカリキュラムの改訂を検討した。平成 16 年入学生から全学生に付属動物病院における臨床ローテーション実習を必修とした。さらに、基礎・臨床・応用の各部門に毎年 3 名の外国人非常勤講師を採用し、分担講義を実施することによって教育の充実を図っている。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
カリキュラムの改善	B	C	B	A	B

A:改善、B:改善努力、C:ほとんどなし

2)開講科目数と総単位(時間)数

酪農学園大学は変更なしとのことである。

北里大学は教養科目の増設としている。

日本獣医畜産大学は、専門科目必修開講科目 166 単位中、50 単位は選択必修科目である。前回改訂のカリキュラム実施中のため、入門講座の新設の他大幅な変更はないとしている。

麻布大学は、これまで基礎獣医学系、臨床獣医学系、応用獣医学系の 3 系で行なってきた教育を、獣医学教育の国際化並びに人と動物の共存に貢献するという社会の要請にあった獣医学教育を行うために、基礎獣医学系、病態獣医学系、生産獣医学系、臨床獣医学系、環境獣医学系の 5 系にし、機能的、効果的カリキュラムを構築した。

日本大学は、変更なしとしている。

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし。
北里大学	教養科目の増設
日本獣医畜産大学	専門科目必修開講科目 166 単位中、50 単位は選択必修科目である。前回改訂のカリキュラム実施中のため、入門講座の新設の他大幅な変更はない。
麻布大学	これまで基礎獣医学系、臨床獣医学系、応用獣医学系の 3 系で行なってきた教育を、獣医学教育の国際化並びに人と動物の共存に貢献するという社会の要請にあった獣医学教育を行うために、基礎獣医学系、病態獣医学系、生産獣医学系、臨床獣医学系、環境獣医学系の 5 系にし、機能的、効果的カリキュラムを構築した。
日本大学	変更なし

			酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
教養科目	開講科目数	必須	10	8	0	17	6
		選択	31	51	46	40	63
	単位数	必須	14	18	0	5	12
		選択	57	103	46	78	117
専門科目	開講科目数	必須	79	55	60	68	46
		選択	47	36	43	6(自由)	44
	単位数	必須	116	143	166	142	92
		選択	72	47	43	9(自由)	55
総計	開講科目数	必須	89	63	60	85	52
		選択	78	87	66	40 6(自由)	107
	単位数	必須	130	152	226	159	104
		選択	129	150	89	23	172

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
開講科目数と総単位(時間)数	C	B	B	A	C

A:改善、B:改善努力、C:ほとんどなし

3) 専門科目別授業時間数

酪農学園大学、変更なしとしている。

北里大学は、変更なしとしている。

日本獣医畜産大学は前回改訂のカリキュラム実施中のため変更なしとしている。

麻布大学は、終了時に獣医学の基礎知識と技術、問題解決能力及び社会人としての教

養を修得できるように設定した。そこで、基礎科目 40 単位を設定し、専門科目 142 単位を必修科目として設定した。また、社会からの要請及び学生からの要望に対応できるよう、自由科目 10 単位と定期的なセミナーを提供する。と改善している。

日本大学は、変更なしとしている。

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし。
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	前回改訂のカリキュラム実施中のため変更なし。
麻布大学	終了時に獣医学の基礎知識と技術、問題解決能力及び社会人としての教養を修得できるように設定した。そこで、基礎科目 40 単位を設定し、専門科目 142 単位を必修科目として設定した。 また、社会からの要請及び学生からの要望に対応できるよう、自由科目 10 単位と定期的なセミナーを提供する。
日本大学	変更なし

		酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
実証分野	開講科目数	28	14	21	11	28
	単位数	34	35	37	36	45
応用分野	開講科目数	25	9	7	4	17
	単位数	32	14	10	7	30
基盤分野	開講科目数	23	16	37	17	32
	単位数	34	47	82	39	53
関連分野	開講科目数	50	—	3	10	16
	単位数	88	—	6	19	28
総計	開講科目数	126	39	68	42	93
	単位数	188	96	135	101	156

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
専門科目別授業時間数	C	C	C	A	C

A:改善、B:改善努力、C:ほとんどなし

4) 実習時間数

酪農学園大学、北里大学、日本獣医畜産大学、麻布大学、日本大学、いずれも変更なしであった。

大 学	変更内容
酪農学園 大学	変更なし。
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	前回改訂のカリキュラム実施中のため変更なし。
麻布大学	変更なし
日本大学	変更なし

		酪農学園 大学	北里大学	日本獣医 畜産大学	麻布大学	日本大学
実証分野	開講科目数	10	7	7	9	9
	単位数	10	14	15	12	10
応用分野	開講科目数	8	3	5	1	8
	単位数	9	3	5	2	9
基盤分野	開講科目数	8	8	6	8	12
	単位数	12	16	13	12	13
関連分野	開講科目数	6	—	1	5	0
	単位数	9	—	6	15	0
総 計	開講科目数	32	18	19	23	29
	単位数	40	33	39	41	32

	酪農学園 大学	北里大学	日本獣医 畜産大学	麻布大学	日本大学
実習時間数	C	C	C	C	C

A:改善、B:改善努力、C:ほとんどなし

5) 実習用動物の使用頭数

各大学の实習用動物の使用頭数は、動物愛護の観点から平成6～10年度調査に比べ、平成11・12年度調査では大きく減少している。使用頭数は、前回調査の平成12年度に比べ、酪農学園大学が増加、北里大学減少、日本獣医畜産大学不明(前回報告なし)、麻布大学平成14年度に増加し、平成15年度に減少、日本大学減少であった。前回の報告にもあるが、実習用動物の減少による獣医学教育の質の低下、教育効果の面における影響を検証すべきと考える。

実習用動物に関して、酪農学園大学、北里大学、日本獣医畜産大学、麻布大学はいずれも変更なしであったが、日本大学は、各実習科目間において実習用動物を融通するローテーションを組むことによって実習用動物の使用総頭数を減少させており、評価できる。

今回の調査における相互評価は、2年間における使用頭数の減少をAとし、使用頭数が同じをBとし、増加をCとした。

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし
北里大学	変更なし
日本獣医畜産大学	変更なし
麻布大学	変更なし
日本大学	変更なし

	年度	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
総頭数	14	3,202	583	1,101	2,729	1,783
	15	5,186	595	1,035	1,519	1,222
総頭数/学生数	14	3,202/859 3.73	583/866 0.67	1,101/625 1.76	2,729/930 2.93	1,783/928 1.92
	15	5,186/874 5.93	595/867 0.69	1,035/623 1.66	1,519/921 1.65	1,222/906 1.35
牛	14	414	5	18	51	60
	15	525	5	14	65	50
馬	14	112	1	2	2	3
	15	104	1	2	4	1
豚	14	0	0	0	53	120
	15	0	0	0	26	250
犬・猫	14	159・18	40	108	186	320・30
	15	110・0	40	100	164	152・44
実験動物 齧歯類	14	2,041	583	973	2,439	1,250
	15	2,523	595	919	1,260	725
その他	15	458	—	—	—	—
	14	1,924	—	—	—	—

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
実習用動物の使用頭数	C	B	B	A	A

A:前年度より減少、 B:前年度と同様、 C:前年度より増加

6) 実習用動物の代替応用

前回の報告で、日本獣医畜産大学、麻布大学は実習用動物の代替応用の取り組みをしていないとあるが、今回も取り組まれていなかった。酪農学園大学、北里大学は、実習用動物の代替応用を取入れており、その後変更なしとしている。日本大学は外科学実習では代替臓器を導入したとしている。実習用動物の代替に関して、各大学は生命倫理教育を含めて検討していく必要があるのではなかろうか。

大 学	変更内容
酪農学園 大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	記載なし
麻布大学	変更なし
日本大学	外科学実習では代替臓器を導入した。

年度	酪農学園 大学	北里大学	日本獣医 畜産大学	麻布大学	日本大学
14	有	有	無	無	有
15	有	有	無	無	有

	酪農学園 大学	北里大学	日本獣医 畜産大学	麻布大学	日本大学
実習用動物の代替応用	B	B	C	C	A

A:改善、 B:改善努力、 C:ほとんどなし

7) 学生による授業評価システム導入

(7-1) アンケート

平成 14 年 6 月の相互評価報告書では、酪農学園大学、北里大学、日本獣医畜産大学、日本大学が、学生による授業評価システムを導入し、アンケートを実施しているとあるが、麻布大学は実施していないとの内容であった。

酪農学園大学は、前回調査以降継続して実施している

北里大学は、前回調査以降継続して実施している。

日本獣医畜産大学は、アンケート方法は前年度と同様に実施している。平成 16 年度よりアンケート方法の改訂を行い、結果の一部を公表することを予定しているとしている。

麻布大学は、平成 15 年度後期に講義及び実習・実験・演習の全ての科目について、学生による授業評価をアンケートで実施した。今後前後期において年 2 回実施することとしたとしている。

日本大学は、全教員が学生による授業評価アンケートを実施するように学科として指導している。アンケートの項目について、その改善を検討しており、より適切な授業評価が実施できるように改革を図っているとしている。

大 学	変更内容
酪農学園 大学	平成 14 年度より毎年実施
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	アンケート方法は前年度と同様に実施している。平成 16 年度よりアンケート方法の改訂を行い、結果の一部を公表することを予定している。
麻布大学	平成 15 年度後期に講義及び実習・実験・演習の全ての科目について、学生による授業評価をアンケートで実施した。今後前後期において年 2 回実施することとした。
日本大学	全教員が学生による授業評価アンケートを実施するように学科として指導している。アンケートの項目について、その改善を検討しており、より適切な授業評価が実施できるように改革を図っている。

(7-2)任意

平成 14 年 6 月の相互評価報告書では、北里大学、日本獣医畜産大学、日本大学が、学生による授業評価システムを導入し、任意で実施しているとあるが、酪農学園大学、麻布大学は任意でなく実施している。

大 学	変更内容
酪農学園 大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	前年度と変更なし。
麻布大学	記載なし
日本大学	記載なし

(7-3)評価公表

学生による授業評価は、教員の資質向上へつながることが重要で、学生へフィードバックする必要があることから、積極的に公表することが望ましい。

酪農学園大学は、前回同様に公表していた。

北里大学は、公表していなかった。

日本獣医畜産大学は、現在実施していないが、平成 16 年度より実施予定とある。

麻布大学は、各科目の集計結果を学内 LAN に掲載し、だれもが閲覧できる状況としている。ただ、自由記述の項目は、各科目担当者だけに配付されているとしている。

日本大学では、現在、学生による授業評価アンケートは各教員の授業の改善に利用するなどに留めている。自己点検の性格上、公表の義務は課していない。しかし、受講学生に対してその評価を公表している教員も一部いる。この姿勢は評価公表への第一歩と考えられ望ましいこと考えている。アンケートのまとめは、公表していないとある。

大学	変更内容
酪農学園大学	平成 15 年度より毎年実施
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	現在実施していないが、平成 16 年度より実施予定。
麻布大学	各科目の集計結果は、学内 LAN に掲載し、だれもが閲覧できる状況にある。ただし、自由記述の項目については、各科目担当者の上に配付することとした。
日本大学	現在、本学科では学生による授業評価アンケートは各教員の授業の改善に利用するなど留めている。自己点検の性格上、公表の義務は課していない。しかし、受講学生に対してその評価を公表している教員も一部いる。この姿勢は評価公表への第一歩と考えられ望ましいこと考えている。

(7-4)改善

酪農学園大学、北里大学、日本獣医畜産大学は、変更記載なしである。

麻布大学は、平成 15 年度の後期から学生評価アンケートを実施し、その学生評価に対する回答は、次年度の授業始めに行うことにしたとしている。

日本大学は学生による授業評価のアンケート項目の検討を行っており、この評価システムがさらに効果的なものになるように改善を図っている。また、評価結果の公表、さらにはファカルティ・ディベロップメントに用いる方策について学部の学務委員会等で検討中であるとしている

大学	変更内容
酪農学園大学	平成 15 年度より毎年実施
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	記載なし
麻布大学	学生評価に対しては授業始めにアンケートに対する回答を次年度実施することとした。
日本大学	学生による授業評価のアンケート項目の検討を行っており、この評価システムがさらに効果的なものになるように改善を図っている。また、評価結果の公表、さらにはファカルティ・ディベロップメントに用いる方策について学部の学務委員会等で検討中である。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
アンケート	B	B	B	A	A
任意	—	—	—	—	—
評価公表	B	C	C	B	B
改善	C	C	C	B	B

A:改善、B:改善努力、C:ほとんどなし

8) 卒業論文(課題研究)の発表方法

(8-1) 全体発表会

平成14年6月の相互評価報告書では、酪農学園大学、北里大学、日本大学が公開の発表会を行っているが、日本獣医畜産大学、麻布大学は行っていない。とある。しかし、この2大学は、卒業論文の開示をしていることから公開といえるが、教育効果の面からは公開の発表会を行うことが望ましいと考える。この状況は、前回調査と変更がなかった。一方、日本大学は、卒業論文の全体発表会を従来から実施してきたが、最近では、学科のホームページに各学生の論文テーマを公表し、5年次学生を主体に下級学年の学生が発表会に参加しやすいように配慮し、積極的に公表している。各大学とも積極的に全体発表会を行うほうが教育効果の面、獣医学科のアピール、教員、学生の資質向上からも望ましいと考える。

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	現在のところ変更なし。
麻布大学	記載なし
日本大学	卒業論文の全体発表会は従来から実施してきた。最近では、本学科のホームページに各学生の論文テーマを公表し、5年次学生を主体に下級学年の学生が発表会に参加しやすいように配慮している。

(8-2) 論文の開示・展示

酪農学園大学、北里大学、日本獣医畜産大学は、変更なしである。

麻布大学は卒論を2日間教員へ開示していたのを平成14年度から学生への開示もしている。

日本大学は、各学生の卒業論文の本体は開示・展示していない。しかしながら、各学生の論文要旨は製本し公表している。また、論文テーマについてはホームページにおいて公開している。

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	現在のところ変更なし。
麻布大学	卒論は2日間教員へ開示していたが平成14年度から学生への開示もしている。
日本大学	各学生の卒業論文の本体は開示・展示していない。しかしながら、各学生の論文要旨は製本し公表している。また、論文テーマについてはホームページにおいて公開している。

	酪農学園 大学	北里大学	日本獣医 畜産大学	麻布大学	日本大学
全体発表会	C	C	C	C	B
論文の開示・展示	C	C	C	B	B

A:改善、B:改善努力、C:ほとんどなし

9) 授業科目の年次配当と授業計画(シラバス)の内容と更新状況

(9-1) 年次配当の検討

獣医学教育の国際化、高度化への対応からカリキュラムの検討が必要である。

酪農学園大学は、平成 13 年度改定カリキュラムより実施している。

北里大学は、行っていない。

日本獣医畜産大学は、変更なしであるが、更新を検討中である。

麻布大学は、平成 15 年度入学生から新カリキュラムで教育を実施、年次配当を偏りのないように変更した。

日本大学は、臨床教育を充実・国際水準へ近づける努力を行ってきた。5 年次・6 年次において、附属動物病院におけるローテーション臨床教育を可能にするために、専門斉一科目の一部を下級学年に移行した。

大学	変更内容
酪農学園 大学	平成 13 年度改定カリキュラムより実施
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	変更なし。更新を検討中である。
麻布大学	平成 15 年度入学生から新カリキュラムで教育を実施、年次配当を偏りのないように変更した。
日本大学	本学科における臨床教育を充実・国際水準へ近づける努力を行ってきた。5 年次・6 年次において、附属動物病院におけるローテーション臨床教育を可能にするために、専門斉一科目の一部を下級学年に移行した。

(9-2) シラバス毎年更新

シラバスは各大学とも毎年若干の改善等をし、更新が行われていると考える。

酪農学園大学、北里大学、日本獣医畜産大学は、大きな変更なしであった。

麻布大学は新カリキュラムの導入にあたり内容を変更していた。

日本大学は獣医学に対する社会の要請並びに欧米の先進諸国の獣医学教育を反映させて、絶えずカリキュラムの見直しを行ってきた。カリキュラムの変更、並びに教育内容の微細な変更・改善については毎年行っており、それに合わせてシラバスも毎年更新している。

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	前年度に引き続き、毎年改訂を行っている。
麻布大学	新カリキュラムの導入にあたり内容を変更した。
日本大学	本学科では獣医学に対する社会の要請並びに欧米の先進諸国の獣医学教育を反映させて、絶えずカリキュラムの見直しを行ってきた。カリキュラムの変更、並びに教育内容の微細な変更・改善については毎年行っており、それに合わせてシラバスも毎年更新している。

(9-3)シラバス更新時の対応

シラバス更新時は、すべての大学で毎年更新されたシラバスを配布していると考え、更新時の対応は組織としてどのように対応するのかが重要と考える。

酪農学園大学は、平成15年度より、シラバスをホームページに掲載している。

北里大学は、16年度から新カリキュラムに変更予定とある。

日本獣医畜産大学は、変更のあったシラバスを科目毎に新たに印刷し、学生へ配布している。

麻布大学は、毎年シラバスを科目担当で検討し、変更があれば教務委員会で整理訂正している。

日本大学は、シラバスの更新科目を授業開始時のガイダンス等で受講学生に周知させている。

大学	変更内容
酪農学園大学	平成15年度より、シラバスをホームページに掲載
北里大学	平成16年度から新カリキュラムに変更
日本獣医畜産大学	変更のあったシラバスについては科目毎に新たに印刷し、学生に配布している。
麻布大学	シラバスは毎年科目担当で検討し変更があれば教務委員会で整理訂正している。
日本大学	シラバスの更新科目については、授業開始時のガイダンス等を利用して受講学生に変更を周知させている。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
年次配当の検討	B	C	C	B	B
シラバス毎年更新	C	C	B	B	B
シラバス更新時の対応	B	C	B	B	B

A:改善、B:改善努力、C:ほとんどなし

10) 授業方法の改善状況

(10-1) 環境整備の改善

酪農学園大学は、平成 14 年度新講義棟増設。平成 15 年度新家畜病院建設をしている。

北里大学は、講義室への液晶プロジェクターの設置・更新、空調機の設置、図書館の改築をしている。

日本獣医畜産大学は、平成 15 年度に動物医療センター及び生命科学共同研究施設が新たに竣工している。

麻布大学は IT 教育に対応できるよう、各教室の教育機器を整備している。

日本大学は、教育効果を上げる目的で、視聴覚教材を用いた教育を有効に実施し、ほぼ全ての講義室にパソコン対応の器機を学部レベルで導入している。

各大学とも教育環境整備に毎年何らかの対応をしているようである。

大学	変更内容
酪農学園大学	平成 14 年度新講義棟増設。平成 15 年度新家畜病院建設
北里大学	講義室への液晶プロジェクターの設置・更新、エアコンの設置、図書館の改築
日本獣医畜産大学	平成 15 年度に動物医療センター及び生命科学共同実験施設が新たに竣工した。
麻布大学	IT 教育に対応できるよう、各教室の教育機器を整備した。
日本大学	教育効果を上げる目的で、視聴覚教材を用いた教育を有効に実施し、ほぼ全ての講義室にパソコン対応の器機を学部レベルで導入した。

(10-2) 教員組織の改善

獣医学教育の国際化、高度化への対応から教員組織の改善が必要である。

各大学の対応をみると、酪農学園大学は、変更なしであるが、平成 16 年度より臨床系教室を改組の予定とある。

北里大学は、現在、57 名の定員枠の補充中とある。

日本獣医畜産大学は、現在検討中とのことである。

麻布大学は、変更なしとしている。

日本大学は、一つの授業を複数の教員が担当するオムニバス方式の授業形態をとる学科目の増加に伴い、教員間の連携を密接に行う努力をしている。また、教員数の増員は獣医学科の重要課題として位置づけて対応しているが、十分な成果を得るには至っていない。

大 学	変更内容
酪農学園 大学	変更なし ただし、平成 16 年度より臨床系教室を改組
北里大学	現在、57 名の定員枠の補充中
日本獣医 畜産大学	現在検討中である。
麻布大学	変更なし
日本大学	一つの授業を複数の教員が担当するオムニバス方式の授業形態をとる学科 目の増加に伴い、教員間の連繋を密接に行う努力をしている。また、教員数 の増員は本学科の重要課題として位置づけて対応しているが、十分な成果 を得るには至っていない。

(10-3)授業方法の改善

酪農学園大学は、平成 13 年度開設カリキュラムで、臨床系の講義・実習を中心に漸次的改善をねらうとしている。

北里大学は、行っていない。

日本獣医畜産大学は、動物医療センターの竣工に伴い、AV 機器やコンピュータを用いた、よりビジュアルな授業が飛躍的に改善した。また、より高度な臨床実習が可能となったとしている。

麻布大学は IT 教育に対応できるよう、各教室の教育機器を整備したことから、パワーポイントを利用して授業が多くなった。

日本大学は、現在のところ、学生による授業アンケート結果を参考にして、各教員の自助努力による授業方法の改善が精力的に図られているとしている。

大 学	変更内容
酪農学園 大学	平成 13 年度開設カリキュラムで、臨床系の講義・実習を中心に漸次的改善をねらう
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	動物医療センターの竣工に伴い、AV 機器やコンピュータを用いた、よりビジュアルな授業が飛躍的に改善した。また、より高度な臨床実習が可能となった。
麻布大学	IT 教育に対応できるよう、各教室の教育機器を整備したことから、パワーポイントを利用して授業が多くなった。
日本大学	現在のところ、学生による授業アンケート結果を参考にして、各教員の自助努力による授業方法の改善が精力的に図られている

(10-4)成績評価の明示や改善

成績評価の明示や改善は、今後 GPA 方式の導入を検討する必要がある。そこで、各大学の成績評価の明示や改善を調査した。

酪農学園大学は、変更なしである。

北里大学は、行っていない。

日本獣医畜産大学は、前年度と同様、各学期の成績は学科、学年毎に○×方式で掲示されている。実点や評価内容の明示については教員の裁量にまかされている。

麻布大学は変更なしとしている。

日本大学では、成績評価基準の明示は全教員がシラバスに記載することで徹底を図ってきた。さらに、現在は及第成績を A・B・C の 3 段階としているが、欧米の基準に合わせて 4 段階方式(GPA)を平成 17 年度より導入することを決定した。

大 学	変更内容
酪農学園大学	変更なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	前年度と同様、各学期の成績は学科、学年毎に○×方式で掲示されている。実点や評価内容の明示については教員の裁量にまかされている。
麻布大学	変更なし
日本大学	成績評価基準の明示は全教員がシラバスに記載することで徹底を図ってきた。さらに、現在は及第成績を A・B・C の 3 段階としているが、欧米の基準に合わせて 4 段階方式(GPA)を平成 17 年度より導入することを決定した。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
環境整備の改善	A	A	A	A	A
教員組織の改善	B	B	C	C	B
授業方法の改善	B	C	B	B	B
成績評価の明示や改善	C	C	C	C	B

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

11) 単位互換制度

(11-1) 国内大学

教育交流としては、大学の特徴を利用した単位互換制度があることが望ましく、制度の利用により学生交流が活発になることを期待したい。

酪農学園大学は、行っていない。

北里大学は、変更なし。

日本獣医畜産大学は、従来の武蔵野地区 5 大学間での単位互換制度を行っている。

麻布大学は変更なしとしている。

日本大学は、獣医学科を基礎に置く大学院獣医学研究科が神奈川県下の大学と連携した「神奈川県内の大学間における学術交流協定」を締結している。現在、獣医学科ではこの制度を利用している学生はいない。

大 学	変更内容
酪農学園大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	従来の武蔵野地区 5 大学間での単位互換制度を行っている。記載なし
麻布大学	変更なし。
日本大学	本学科を基礎に置く大学院獣医学研究科では、神奈川県下の大学と連携した「神奈川県内の大学間における学術交流協定」を締結している。現在、本学科ではこの制度を利用している学生はいない。

(11-2)放送大学

酪農学園大学、麻布大学が放送大学を利用、変更なしとあり、北里大学、日本獣医畜産大学は、行っていない。と記載されている。日本大学は変更記載なし。であった。

学問の分野は細分化され、各代学は対応に努力をしている。国際化を目指す獣医学科は、学際領域、コミュニケーション教育、生命倫理教育など、分野によっては放送大学との連携を密にする必要があると考える。

大 学	変更内容
酪農学園大学	変更なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	記載なし
麻布大学	変更なし。
日本大学	記載なし

(11-3)国外大学

酪農学園大学は、国外の大学と単位互換を行っていない。

北里大学は、変更なし。

日本獣医畜産大学は、現在検討中である。

麻布大学は変更なし。

とあり、4 大学では今後検討を期待する。

日本大学は、現在、単位互換を実施し、または実施することを決定している国外大学が、米国のワシントン州大学 1 校と中国の研究施設 1 カ所である。なお、学部では学術協定校をはじめ海外の大学で履修した科目について単位を認定する制度が設けられており、すでに実績があるとされ、今後の充実を望むものである。

大学	変更内容
酪農学園大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	現在検討中である。
麻布大学	変更なし
日本大学	現在、本学科が単位互換を実施し、または実施することを決定している国外大学は、米国のワシントン州大学1校と中国の研究施設1カ所である。なお、本学部では学術協定校をはじめ海外の大学で履修した科目について単位を認定する制度が設けられており、すでに実績がある。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
国内大学	C	C	B	C	C
放送大学	C	C	C	C	C
国外大学	C	C	B	C	B

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

12)他大学および他施設との教育協力体制

(12-1)国内大学

酪農学園大学は、国内大学と教育協力を行っていない。

北里大学は、変更なしである。

日本獣医畜産大学は、国内大学と教育協力を行っていない。

麻布大学は、変更なしである。以上の4大学では今後の検討を期待する。

日本大学は、COEプログラム並びに学術フロンティアなどの教育協力体制が存在している。そのほか、各教員が独自で国内他大学の教員との教育協力体制を強化する努力を行っている。

大学	変更内容
酪農学園大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	記載なし
麻布大学	変更なし
日本大学	本学部ではCOEプログラム並びに学術フロンティアなどの教育協力体制が存在している。そのほか、各教員が独自で国内他大学の教員との教育協力体制を強化する努力を行っている。

(12-2)国内他施設

酪農学園大学は、国内他施設との教育協力を行っていない。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、変更なしとある。

麻布大学は専門学外実習の実施により家畜保健衛生所、家畜共済等専門実習に協力をいただいている。

日本大学は COE プログラムならびに学術フロンティアなどの教育協力体制が国内の他施設との間で存在している。さらには各教員が教育・研究活動の向上を図るため個人レベルでの教育協力体制を構築する努力を図っているとある。

大 学	変更内容
酪農学園大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	特段の変更はない。
麻布大学	専門学外実習の実施により家畜保健所、家畜共済等専門実習に協力をいただいている。
日本大学	COE プログラムならびに学術フロンティアなどの教育協力体制が国内の他施設との間で存在している。さらには各教員が教育・研究活動の向上を図るため個人レベルでの教育協力体制を構築する努力を図っている。

(12-3) 国外大学

酪農学園大学は、国外大学と教育協力を行っていない。

北里大学は、変更なしである。

日本獣医畜産大学は、新たにタイ王国のコンケン大学及びカセサート大学との間で教育協力体制が発足しているとある。

麻布大学は専門学外実習を学術交流協定校(ペンシルバニア大学)で実施している。

日本大学では、獣医学科の所属する生物資源科学部が海外の数大学と学術協定を締結して、大学院学生や学部学生の研修、教員の共同研究を展開している。獣医学科ではワシントン州立大学、サンパウロ大学の2校が主体となっている。

大 学	変更内容
酪農学園大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	新たにタイ王国のコンケン大学及びカセサート大学との間で教育協力体制が発足している。
麻布大学	専門学外実習を学術交流協定校(ペンシルバニア大学)で実施している。
日本大学	本学科が所属する生物資源科学部は海外の数大学と学術協定を締結して、大学院学生や学部学生の研修、教員の共同研究を展開している。本学科ではワシントン州立大学、サンパウロ大学の2校が主体となっている。

	酪農学園 大学	北里大学	日本獣医 畜産大学	麻布大学	日本大学
国内大学	C	C	C	C	B
国内他施設	C	C	C	B	B
国外大学	C	C	B	B	B

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

13) 卒後教育および生涯教育制度

(13-1) 学部・院研究生

酪農学園大学は、学部・院研究生の卒後教育および生涯教育に関する記載がない。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、動物医療センターの開設に伴い、卒後臨床研修委員会の名称を改め臨床研修委員会とし、臨床研修規程および運営細則の制定に努めている。

麻布大学は、変更なしとある。

日本大学は獣医学科に基礎を置く附属病院において、診療業務とは別に主に開業臨床獣医師を対象にしたセミナーを毎月開催している。このセミナーは、卒業教育として有効に機能しており、日本獣医師会の生涯教育プログラムとしても認定を受けている。

大 学	変更内容
酪農学園 大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	動物医療センターの開設に伴い、卒後臨床研修委員会の名称を改め臨床 研修委員会とし、臨床研修規程および運営細則の制定に努めている。
麻布大学	変更なし
日本大学	本学科に基礎を置く附属病院において、診療業務とは別に主に開業臨床 獣医師を対象にしたセミナーを毎月開催している。このセミナーは、卒業教 育として有効に機能しており、日本獣医師会の生涯教育プログラムとしても 認定を受けている。

(13-2) 附属動物病院研修獣医

卒後教育および生涯教育制度としての附属動物病院研修獣医について、酪農学園大学、北里大学は、変更なしである。

日本獣医畜産大学は、臨床研修プログラムを作成し、平成15年度は10名の研修獣医師を採用している。

麻布大学は、変更なしである。

日本大学は、附属動物病院に前期2ヶ年、後期2ヶ年の計4年間研修する有給研修医制度を設けた。この制度は国内大学の附属動物病院で初めて導入されたものであり、附属動物病院研修獣医制度としては改善がすすんでいる。

大 学	変更内容
酪農学園大学	変更なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	臨床研修プログラムを作成し、平成 15 年度は 10 名の研修獣医師を採用している。
麻布大学	変更なし
日本大学	附属動物病院には、前期 2 ヶ年、後期 2 ヶ年の計 4 年間研修する有給研修医制度を設けている。本制度により、現在、月額支給額 15～20 万円の研修生 10 名が在籍している。本制度は国内の大学附属動物病院のなかで初めて導入されたものである。現在、動物病院の増築工事が進行中であり、拡張に合わせて有給研修医の増員を検討中である。

(13-3) 科目等履修生

科目等履修生について、酪農学園大学、北里大学、日本獣医畜産大学、麻布大学、日本大学のいずれも科目等履修生の制度を持ち、学生の受け入れは行っており、特に変更は無いとしている。

大 学	変更内容
酪農学園大学	変更なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	科目等履修生の受け入れは行っている。
麻布大学	変更なし
日本大学	科目等履修生については学部レベルで制度化されており、本学科においても毎年、数名がこの制度を利用して在籍している。

(13-4) 学会研修会講習会

酪農学園大学は、大動物臨床教育(しゃくなげ会)などを開催している。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、学会研修会講習会を引き続き行っている。

麻布大学は、変更なしとしている。

日本大学は、動物病院でセミナーを初め各種のシンポジウムを公開で実施しており、卒業教育の一環として有効に機能している。これらのセミナー・シンポジウムのさらなる充実・展開を図っている。

大 学	変更内容
酪農学園 大学	変更なし 大動物臨床教育(しゃくなげ会)など
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	引き続き行っている。
麻布大学	変更なし
日本大学	動物病院ではセミナーを初め各種のシンポジウムを公開で実施しており、卒業教育の一環として有効に機能している。これらのセミナー・シンポジウムのさらなる充実・展開を図っている。

	酪農学園 大学	北里大学	日本獣医 畜産大学	麻布大学	日本大学
学部・院研究生	C	C	B	C	B
附属動物病院研修獣医	C	C	B	C	A
科目等履修生	C	C	C	C	C
学会研修会講習会	B	C	C	C	A

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

14) 社会的ネットワークの状況

(14-1) 産学交流

社会的ネットワークの状況として、産学交流は重要である。

酪農学園大学は、産学交流に関する記載がない。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、推進を図る準備段階にある。

麻布大学は変更なしとしている。

日本大学は研究成果並びに技術移転等を積極的に推進するために、TLOとして国際産業技術・ビジネスセンター(NUBIC)が設置されており、本組織の有効利用が図られているとしている。

大 学	変更内容
酪農学園 大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	推進を図る準備段階にある。
麻布大学	変更なし
日本大学	本学には研究成果並びに技術移転等を積極的に推進するために、TLOとして国際産業技術・ビジネスセンター(NUBIC)が設置されており、本組織の有効利用が図られている。

(14-2) 地域交流

社会的ネットワークの状況として、地域交流は重要である。

酪農学園大学は、地域交流の変更なしとある。

北里大学は、地域交流の変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、市民との文化交流を目的とした公開講座、武蔵野地域 5 大学の学生と一緒に大学の講義を受講できる制度の武蔵野地域自由大学(市民大学)が平成 15 年度に発足した。また自治体(武蔵野市)の寄附講座が開講された。

麻布大学は、地域交流の変更なしとある。

日本大学は学部では市民講座、公開講座、理科実験セミナー、資料館公開、公民館共催講座などを通して地域との交流を図っている。現在、これらの活動のさらなる活性化が学部レベルで検討されている。

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	市民との文化交流を目的とした公開講座、武蔵野地域 5 大学の学生と一緒に大学の講義を受講できる制度の武蔵野地域自由大学(市民大学)が平成 15 年度に発足した。また自治体(武蔵野市)の寄附講座が開講された。
麻布大学	変更なし
日本大学	本学部では市民講座、公開講座、理科実験セミナー、資料館公開、公民館共催講座などを通して地域との交流を図っている。現在、これらの活動のさらなる活性化が学部レベルで検討されている。

(14-3) 国際交流

酪農学園大学は、オハイオ州立大、東フィリッピン大、ハノーバー大と国際交流があり、変更なしとある。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、平成 15 年度までに中国、タイ(2 大学)、韓国、ベトナムの 5 つの獣医学系大学との学術交流が行われており、16 年度中にはオーストラリアのクインズランド大学との学術交流協定を締結する予定である。

麻布大学は、全北大学(韓国)と学術交流協定を結ぶために準備をしている。

日本大学は、海外 5 大学と学術協定を締結している中で、獣医学科は米国の大学 1 校と中国の研究施設 1 ヶ所において学生の単位履修を認定している。また、獣医学科学生教育においては、毎年 3 名の外国人非常勤講師を委嘱し教育・研究の交流を図っている。さらに、獣医学科の教員も個人的なルートで海外の研究機関との教育研究の連繫を図っているとそれぞれある。

大学	変更内容
酪農学園大学	変更なし オハイオ州立大、東フィリッピン大、ハノーバー大
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	平成15年度までに中国、タイ(2大学)、韓国、ベトナムの5つの獣医学系大学との学術交流が行われており、16年度中にはオーストラリアのクインズランド大学との学術交流協定を締結する予定である。
麻布大学	全北大学(韓国)と学術交流協定を結ぶために準備をしている。
日本大学	本学部は海外5大学と学術協定を締結している中で、本学科は米国の大学1校と中国の研究施設1カ所において学生の単位履修を認定している。また、本学科学生教育においては、毎年3名の外国人非常勤講師を委嘱し教育・研究の交流を図っている。さらに、本学科の教員も個人的なルートで海外の研究機関との教育研究の連繫を図っている。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
産学交流	C	C	B	C	B
地域交流	C	C	A	C	A
国際交流	C	C	B	B	A

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

15) 倫理教育の取組み

(15-1) 生命観・倫理観養成の教育

人の健康、動物の命に携わる獣医師にとって、生命観・倫理観養成の教育は重要である。

酪農学園大学は、キリスト教ほかである。

北里大学は、変更なしである。

日本獣医畜産大学は、教育目標として、生命倫理、動物愛護、福祉及び地球環境の保全等に貢献する獣医師を育む教育システムを構築している。具体的には低学年次には自然科学概論、心理学概論、獣医学概論など、高学年次には獣医倫理学、獣医畜産法規を開設している。

麻布大学は、平成15年度入学生適用のカリキュラムから、「獣医倫理・動物福祉学」の科目を立ち上げ取り組んでいる。

日本大学は、学生の職業倫理観の醸成の必要性から、そのための授業科目を新設した。

大学	変更内容
酪農学園大学	キリスト教ほか
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	教育目標として、生命倫理、動物愛護、福祉及び地球環境の保全等に貢献する獣医師を育む教育システムを構築している。具体的には低学年次には自然科学概論、心理学概論、獣医学概論など、高学年次には獣医倫理学、獣医畜産法規を開設している。
麻布大学	平成 15 年度入学生適用のカリキュラムから、「獣医倫理・動物福祉学」の科目を立ち上げ取り組んでいる。
日本大学	学生の職業倫理観の醸成の必要性から、そのための授業科目を新設した。

(15-2) 職業倫理教育の体系化

人の健康、動物の命に携わる獣医師にとって、職業倫理教育は重要である。

酪農学園大学は、獣医学総合講義ほかで行っている。

北里大学は、職業倫理教育を行っていない。

日本獣医畜産大学は、現在検討中である。

麻布大学は、職業倫理教育を行っていない。

日本大学は、15-1 に関する教育を具体化する目的で、新設科目である獣医倫理・動物福祉学を必修科目として体系化した。

大学	変更内容
酪農学園大学	獣医学総合講義ほか
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	現在検討中である。
麻布大学	変更なし
日本大学	15-1 に関する教育を具体化する目的で、新設科目である獣医倫理・動物福祉学を必修科目として体系化した。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
生命観・倫理観養成の教育	B	C	A	A	A
職業倫理教育の体系化	B	C	B	C	A

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

16) 実践・実務能力を醸成する教育

(16-1) ケーススタディを考慮した授業

獣医学を修める者にとって、実践・実務能力を醸成する教育を行うことは重要である。

酪農学園大学は、総合臨床実習の一部でポリクリを実施している。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、症例を用いた大動物および小動物臨床実習を行っており、症例検

討会を実施している。

麻布大学は、平成14年年度から産業動物臨床実習、小動物臨床実習で症例を用いた実習を行い、学生と教員で症例検討を通して教育をしている。また、平成15年度からは新カリキュラムへの変更から1年次に産業動物臨床基礎実習を自由科目として設け、動物病院入院した症例牛を教材として教育を開始した。

日本大学は、獣医学科における臨床系学科目、応用系学科目の多くはケーススタディを用いた授業の充実を図っている。さらに、基礎系学科目における演習などにおいて、ケーススタディを導入する試みが始められている。

大 学	変更内容
酪農学園大学	総合臨床実習の一部でポリクリを実施
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	症例を用いた大動物および小動物臨床実習を行っており、症例検討会を実施している。
麻布大学	平成14年年度から産業動物臨床実習、小動物臨床実習で症例を用いた実習を行い、学生と教員で症例検討を通して教育をしている。
日本大学	本学科における臨床系学科目、応用系学科目の多くはケーススタディを用いた授業の充実を図っている。さらに、基礎系学科目における演習などにおいて、ケーススタディを導入する試みが始められている。

(16-2)ディベートを考慮した授業

獣医学科において、ディベートを教育手法に考慮した授業は、獣医学の専門科目で行うのは難しいと考える。そこで、各大学は下記の回答となっている。

酪農学園大学は、行っていない。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、特に行っていない。

麻布大学は、特に行っていない。

日本大学の獣医学科ではディベートを主な教育手法とした学科目は存在しない。しかしながら、演習科目等においては、教員・学生間の2方向授業を試みる教員もおり、将来的には主要教育手法としてディベートが導入されることが期待されている。

大 学	変更内容
酪農学園大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	特に行っていない
麻布大学	変更なし
日本大学	本学科ではディベートを主な教育手法とした学科目は存在しない。しかしながら、演習科目等においては、教員・学生間の2方向授業を試みる教員もおり、将来的には主要教育手法としてディベートが導入されることが期待されている。

(16-3)フィールドワークを考慮した授業

獣医学教育において、フィールドワークを考慮した授業を行うことは重要であることから、各大学はそれを実施している。実施に当たり、平成 14 年度、15 年度の変更として下記の記載があった。

酪農学園大学は、研究室実習で教員の診療に随伴。酪農実習Ⅱでは農家に寄宿させている。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、本学の附属施設、学外の研修施設を利用して、少人数による集中実習、グループ実習を実施している。

麻布大学は、平成 15 年度から新カリキュラムで専門学外実習を設定し、獣医師の職域における実習を必須化した。

日本大学は、獣医学科における臨床系学科目並びに応用系学科目の多くにおいて、フィールドワークの拡大・充実が図られている。さらに、インターンシップとフィールドワークの連繫を模索している。

大学	変更内容
酪農学園大学	研究室実習で教員の診療に随伴。酪農実習Ⅱでは農家に寄宿
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	本学の附属施設、学外の研修施設を利用して、少人数による集中実習、グループ実習を実施している。
麻布大学	平成 15 年度から新カリキュラムで専門学外実習を設定し、獣医師の職域における実習を必須化した。
日本大学	本学科における臨床系学科目並びに応用系学科目の多くにおいて、フィールドワークの拡大・充実が図られている。さらに、インターンシップとフィールドワークの連繫を模索している。

(16-4)少人数教育の実施

教育効果を上げるためには少人数教育が必要であるが、講義、実習に適正な学生数があると考える。

酪農学園大学は、総合臨床実習でのポリクリ、専修教育におけるコース制ほかで、少人数教育の実施している。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、専門実習科目はすべて各班(6-8名)に分け、班毎に実習を行う。講義については、現在準備段階にある。各教室(研究室)への入室制度により、専門外国語、コンピュータ利用法、卒業論文の作成等を行っている。

麻布大学は、平成 14 年度からは、英語教育が 4 クラス編成で、臨床系実習については、1 班 4 人前後の少人数教育を行っている。

日本大学は、従来から、実験・実習に関しては少数教育の強化・徹底を推進してきた。現 5 年次学生のカリキュラムに反映されている臨床系のローテーション教育をさらに具体化したものである。

大学	変更内容
酪農学園大学	総合臨床実習でのポリクリ、専修教育におけるコース制ほか
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	専門実習科目はすべて各班(6-8名)に分け、班毎に実習を行う。講義については、現在準備段階にある。各教室(研究室)への入室制度により、専門外国語、コンピュータ利用法、卒業論文の作成等を行っている。
麻布大学	平成14年度からは、英語教育が4クラス編成で、臨床系実習については、1班4人前後の少人数教育を行っている。
日本大学	従来から、実験・実習に関しては少数教育の強化・徹底を推進してきた。現5年次学生のカリキュラムに反映されている臨床系のローテーション教育をさらに具体化したものである。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
ケーススタディを考慮した授業	A	C	A	A	A
ディベートを考慮した授業	C	C	C	C	B
フィールドワークを考慮した授業	A	C	A	A	A
少人数教育の実施	A	C	A	A	A

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

17) 創造的な教育プロジェクトの実施

酪農学園大学は、創造的な教育プロジェクトを実施していない。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、創造的な教育プロジェクトを実施していない。

麻布大学は、獣医学分野における感染症診断・解析技術に関する教育体制の確立、環境毒性学実習に関する教育体制の確立についてプロジェクトを立ち上げて実施している。

日本大学は、数年前から動物医科学センター構想が立ち上がり、16年度の文部科学省の学術フロンティアに採択された。この成果は、創造的な教育・研究プログラムが評価された結果であると思料する。

大学	変更内容
酪農学園大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	実施していない
麻布大学	獣医学分野における感染症診断・解析技術に関する教育体制の確立、環境毒性学実習に関する教育体制の確立をするためプロジェクトを立ち上げて実施している。
日本大学	数年前から動物医科学センター構想が立ち上がり、16年度の文部科学省の学術フロンティアに採択された。この成果は、創造的な教育・研究プログラムが評価された結果であると思料する。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
創造的な教育プロジェクトの実施	C	C	C	A	A

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

18) 教育満足度調査

教育満足度調査は、自己点検、評価の上でも重要な調査である。

酪農学園大学は、卒業式当日のアンケートを目安箱制度に転換し、通年実施している。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、授業に関するアンケート調査を各科目について行っている。

麻布大学は、教育満足度調査を行っていない。

日本大学は、教育満足度調査としては単独で実施していないが、学生の授業評価アンケートによって各教員が満足度の把握に努めている。

大学	変更内容
酪農学園大学	卒業式当日のアンケートを目安箱制度に転換し、通年実施
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	授業に関するアンケート調査を各科目について行っている。
麻布大学	
日本大学	

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
教育満足度調査	B	C	C	C	C

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

4. 自己点検・評価体制

平成 14 年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1) ファカルティディベロップメント(FD)委員会

ファカルティディベロップメント(FD)委員会は、教員の資質開発など組織的に行う上で重要な委員会である。

酪農学園大学は、平成 14 年度設置とある。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、委員会としては立ち上げていない。

麻布大学は、平成 15 年度は委員会設置を検討し、次年度から活動開始を予定している。

日本大学は、現在のところ、本学科内にも学部内にも FD 委員会は組織されていないが、FD 委員会設置に向けて、具体的な検討に入っている。

現在、各大学の FD 委員会は、活動状況がなく、早急に活動が望まれる。

大学	変更内容
酪農学園大学	平成 14 年度設置
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	委員会としては立ち上げていない。
麻布大学	平成 15 年度は委員会設置を検討し、次年度から活動開始を予定している。
日本大学	現在のところ、本学科内にも学部内にも FD 委員会は組織されていないが、FD 委員会設置に向けて、具体的な検討に入っている。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
FD 委員会	A	C	C	B	B

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

2) FD 委員会活動内容

(2-1) 教員相互の評価

酪農学園大学は、教員相互の評価を行っていない。

北里大学は、教員相互の評価を行っていない。

日本獣医畜産大学は、教員相互の評価は行っていないが、各教員は教育責任の認識、シラバスの作成とこれに基づく授業方法の改善、オフィスアワーの設定、あるいは情報システム利用による講義資料の公開に努めている。

麻布大学は、教員相互の評価を行っていない。

日本大学は、現在のところ、FD 委員会は組織されていないが、学部のFD構想には教員間の相互評価が含まれている。

大 学	変更内容
酪農学園 大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医 畜産大学	教員相互の評価は行っていないが、各教員は教育責任の認識、シラバスの作成とこれに基づく授業方法の改善、オフィスアワーの設定、あるいは情報システム利用による講義資料の公開に努めている。
麻布大学	変更なし
日本大学	現在のところ、FD 委員会は組織されていないが、学部のFD構想には教員間の相互評価が含まれている。

(2-2) 学生による授業評価

教員の資質向上、授業改善からは、学生による授業評価は重要である。

酪農学園大学は、平成 14 年度より毎年実施とある。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、全ての授業について統一した項目を用いて実施しているが、必ずしも回収率は高くない。これを是正するため新たなアンケート用紙(マークシート方式)を作成し、集計データを学生に公表すべき準備段階にある。

麻布大学は、平成 15 年度後期授業から全学的に統一した様式で実施を始めた。

日本大学は、現在のところ、学生による授業評価は教務課が窓口になり、教員各自の自己点検の意味合いが強い。現在、設置が検討されている FD 委員会が機能すれば、この委員会が教員の授業評価の受け皿になるものと理解している。

大 学	変更内容
酪農学園大学	平成 14 年度より毎年実施
北里大学	記載なし
日本獣医畜産 大学	全ての授業について統一した項目を用いて実施しているが、必ずしも回収率は高くない。これを是正するため新たなアンケート用紙(マークシート方式)を作成し、集計データを学生に公表すべき準備段階にある。
麻布大学	平成 15 年度後期授業から全学的に統一した様式で実施を始めた。
日本大学	現在のところ、学生による授業評価は教務課が窓口になり、教員各自の自己点検の意味合いが強い。現在、設置が検討されている FD 委員会が機能すれば、この委員会が教員の授業評価の受け皿になるものと理解している。

	酪農学園 大学	北里大学	日本獣医 畜産大学	麻布大学	日本大学
教員相互の評価	C	C	C	C	C
学生による授業評価	A	C	A	A	B

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

5. 教育の国際化対応

平成 14 年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1) コミュニケーション手段への配慮

教育の国際化対応として、コミュニケーション手段は重要である。

酪農学園大学は、コミュニケーション手段への配慮をしていない。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、国外の 5 大学との学術交流協定に基づく学生及び教員の交流を行っており、国際化への対応に努めているとあるが、コミュニケーション手段への配慮に関する記載がない。

麻布大学は、コミュニケーション手段への配慮をしていない。

日本大学は、Local Area Network (LAN) の充実を図り、海外とのコミュニケーションインフラの拡大を努めている。また、学生に対する国際化対応(コミュニケーション)にはネイティブ・スピーカーによるキャリアイングリッシュ講座を学部レベルで開設している。

大学	変更内容
酪農学園大学	
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	国外の 5 大学との学術交流協定に基づく学生及び教員の交流を行っており、国際化への対応に努めている。
麻布大学	変更なし
日本大学	Local Area Network (LAN) の充実を図り、海外とのコミュニケーションインフラの拡大を努めている。また、学生に対する国際化対応(コミュニケーション)にはネイティブ・スピーカーによるキャリアイングリッシュ講座を学部レベルで開設した。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
コミュニケーション手段への配慮	C	C	C	C	A

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

2) 国外の大学との単位交換

酪農学園大学は、国外の大学との単位交換を行っていない。

北里大学は、変更なしとある。

日本獣医畜産大学は、国外の大学との単位交換を行っていない。

麻布大学は、国外の大学との単位交換を行っていない。

日本大学は、獣医学科において公式な単位互換協定が米国ワシントン州立大学獣医学部との間で締結されており、5 年次学生を主体に夏期休暇を利用して 30~40 名の学生がこの制度によって単位を修得している。

大 学	変更内容
酪農学園大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	実施していない
麻布大学	変更なし
日本大学	本学科においては公式な単位互換協定が米国ワシントン州立大学獣医学部との間で締結されており、5年次学生を主体に夏期休暇を利用して30～40名の学生がこの制度によって単位を修得している。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
国外の大学との単位交換	C	C	C	C	A

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

3) 国外の大学との遠隔授業

酪農学園大学、北里大学、日本獣医畜産大学、麻布大学、日本大学の各大学は、国外の大学との遠隔授業を行っていないとある。ただ、日本大学は、大学レベルでの衛星やインターネットを用いた遠隔授業が検討されているとしている。

大 学	変更内容
酪農学園大学	記載なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	行っていない。
麻布大学	変更なし
日本大学	本学部においては海外の大学との遠隔授業は実施していないが、毎年、3名の外国人非常勤講師を招聘している。大学レベルでは衛星やインターネットを用いた遠隔授業が検討されている。

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
国外の大学との遠隔授業	C	C	C	C	B

A:改善、B:改善の努力、C:ほとんどなし

6. 獣医師国家試験の合格状況

酪農学園大学、北里大学、日本獣医畜産大学、麻布大学は変更なしであった。日本大学は、獣医師国家試験の合格率向上を目標に教員研修会を開催し、意見交換を行い、教育研究指導の改善を図っている。また、6年次後期授業スケジュールの見直し、学生の受験環境の改善・確保を図っている。

各大学の平成14年度および平成15年度の国家試験受験者数、合格者数、合格率は下表のとおりである。なお、全国新卒者の国家試験合格率は平成14年度88.2%(927/1,051人)、平成15年度93.0%(984/1,058人)であった。

平成14年6月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

	変更内容
酪農学園大学	変更なし
北里大学	記載なし
日本獣医畜産大学	記載なし
麻布大学	変更なし
日本大学	獣医師国家試験の合格率向上を目標に教員研修会を開催し、意見交換を行い、教育研究指導の改善を図っている。また、6年次後期授業スケジュールの見直し、学生の受験環境の改善・確保を図っている。

	年度	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
受験者数	14	130	140	95	152	148
	15	151	131	99	146	142
合格者数	14	114	128	86	126	119
	15	145	128	92	133	127
合格率	14	87.7	91.4	90.5	82.9	80.4
	15	96.0	97.7	92.9	91.1	89.4

	酪農学園大学	北里大学	日本獣医畜産大学	麻布大学	日本大学
改善	C	C	C	C	B

Ⅲ. 全体のとりまとめと今後の課題

獣医学科を抱える五つの私立大学は、私立獣医科大学協会を組織し、獣医学教育・研究の充実と改善を目指して「獣医学教育基準の国際化に関する委員会」「相互評価委員会」「大学院相互評価委員会」を設置し、活動後は報告書を作成し、各大学、研究機関、社会に公開してきた。今回、平成 14 年度に報告した「私立獣医科大学における獣医学教育の相互評価報告書」にあるなかで、短期、2 年程度の獣医学教育・研究の充実と改善目標とする項目について、その取組みと達成度状況を調査した。

1. 教育の理念・目的・目標

1) 教育の理念・目的・目標の改善

平成 14 年 6 月の相互評価報告書において、各大学ともに教育の理念・目標は建学の精神および社会的使命から設定、明示しているが、教育の理念・目標達成へ向けて社会の要請に従い、各大学は具体的なことを示しながら、さらなる大学の整備と教育効果の向上に努力すべきと考える。

2) 公表方法と周知への取組み

各大学は社会から大学、学部、学科の存在意義が問われるなかで、教育の理念・目的・目標の公表と周知への取組みを十分に行う必要がある。つまり、教育の理念・目的・目標は学内外へ公表し、大学の存在を社会へ問うことをしなければ意味がない。そこで、各大学は種々な広報媒体を使い「教育の理念・目的・目標」を学外へ公表、周知させているのかを調査した。各大学は、大学刊行物、ホームページ、パンフレット、シラバスで広報、周知させていることから相応に評価でき、今後も積極的に公表していくことを期待する。

2. 教育・研究・事務組織

1) 教育組織

教育組織、教員の適正配置として、各大学は平成 14 年 6 月の相互評価報告書の自己評価に、それぞれ対応が必要なことを記載しているが、いずれも獣医学教育基準の国際化を到達目標に努力することとなった。そこで、各大学は、教育の充実、改善、とりわけ臨床教育の充実、改善のために動物病院の新築、増改築とその設備機器の充実を行い、一新された施設へと移行、移行しつつあることから評価に値すると思われた。

各大学は、獣医学教育基準の国際化、大学基準協会の基準教員数 72 人を到達目標に、教育組織、教員の適正配置を行っているが、特に、教員数は一朝一夕に充実させることは難しく、一步一步目標に近づく努力、工夫が必要と考える。いっぽう、日本大学は、平成 14 年度から基礎・臨床・応用の 3 部門に、外国人非常勤講師を 3 名委嘱し、国際化に向けた獣医学教育とその教育組織の充実を図っている。さらに、平成 15 年度には中国の研究施

設における学生への技術教育とその履修単位取得に関する協定の締結に向けて準備や、女子学生の占める割合の増加に対応するため、平成 14 年度女性教員を採用し、臨床系分野に配置したとあり、努力工夫がみられ、他大学も状況に応じての努力が必要と考える。各大学の教員数は、大学基準協会の基準である 72 人に達してはいないが、任期制の教員、臨床教員制度など工夫次第でその教員数を確保することは可能と思われるので、各大学は教育組織の改革を含めて大いに検討努力すべきと考える。

獣医学教育基準の国際化では、入学定員 60 人に対して専任教員 72 人以上とすることが各大学に求められ、改善目標とした。まず、現在の各大学の学生収容数と在籍学生数の比率をみると、各大学の在籍学生数は学生収容数の 1.3 倍以内であるが、酪農学園大学と北里大学はその比率を 1.2 倍とし、学生数の適正化に努めている。他大学は 1.3 倍であり、学生数の適正化に努める必要があるとし、日本獣医畜産大学は徐々に 1.2 倍と学生数を減少させるように、日本大学は 1.15 倍以内を目標に学生数の適正化に努めていることから評価できる。しかし、麻布大学は学生数の適正化に努めておらず、今後の検討が待たれる。

教育効果を期待すると、少ない学生と多くの教員が望ましく、各大学は少人数教育の効果を認めていることから実習・演習は少人数教育を取り入れている。一方、このことは教員が同じ教育を何度も繰返していることから、教員の負担は大きくなっていることを考慮しなければならない。そこで、各大学は特に実験実習に教員数の増加をはかることが強く望まれるが、実験実習の人的補助としてティーチング・アシスタント(TA)制を設け、TA として大学院生を採用している。しかし、教育支援体制が TA 制のみでは充分でなく、今後任期制教員、臨床教員、レジデント制等を検討導入する必要があると考える。

平成 14 年 6 月の相互評価報告書において、各大学は教育活動の評価システムを持っていないので、評価システムを確立することが指摘されている。そこで、今回の短期改善調査項目としたが、各大学は教育活動の評価システムがなく、ファカルティ・ディベロップメント委員会とあわせて早急に検討整理する必要があると考える。

2) 研究組織

研究組織の充実は、教育研究を行う上で十分な施設、設備、機器があることであるが、短期改善度調査であることから、各教員が研究活動を高め、成果を教育に反映させるものとして、活動の研究資金に関して調査した。各大学は積極的に研究資金の導入の努力をしているが、大学の研究費は最高で一人当たり 106 万円、多くはそれ以下であり、充分とはいえない。今後、研究資金の導入に当たり、文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業等があることから、プロジェクトを立ち上げて積極的に申請することが望ましく、このような試みを行うことが、一層の教育・研究組織の充実につながるものと考ええる。

外部資金導入として科学研究費補助金の申請は、各大学取組んでいくべきものと考ええる。まず、各大学は、全教員が申請をし、採択率の向上に努めることが重要と考える。そこで、各大学は採択率向上に向けて具体的な試み、組織的な取組みをすべきと考える。さらに、研究助成金等の獲得について、各大学は積極的に広報を行い、応募を行うようシステム作りが必要と考える。

3) 事務組織

大学は、効果的な教育をするために教育、研究、事務組織が適切に組織化され、運営されなければならない。そこで、事務組織に関しても改善目標を設定し、対応する必要がある。各大学は、教育・研究活動を支援する上で適切な事務組織を整備し、教学組織と連携をとり、これをサポートする体制を整備する必要がある。一部の大学であるが、職員の研修会などへの参加、人事評価制度の導入など、人材の育成に努めており、多くの大学が積極的に行うよう努力すべきと考える。いっぽう、職員数は各大学とも少ない職員で組織運営を行っているが、教育へのサポート、学生へのサービスを考慮した職員の適正数の検討は今後の課題と考える。

3. 教育課程の充実度

教育課程の充実度に関して、平成 14 年 6 月の相互評価報告書では、各大学が獣医学教育の国際水準到達へ向けて開講科目と単位について検証がなされていないと判断している。そこで、平成 14 年および平成 15 年度の改善、改革進捗状況を調査した。

2 年の短期調査では評価をすることは難しいと考えるが、各大学は、カリキュラムの改善に関し、臨床科目の充実、実証・応用分野の充実等、それぞれの特徴を整理し対応していることは評価できる。

1) カリキュラムの改善

獣医学教育の国際水準到達へ向けてのカリキュラムの改善であるが、なかでも、高校までの教育の変化によって、獣医学を学ぶ基礎の科目の高等学校における履修度が不十分であることから、日本獣医畜産大学は、理科系科目(生物学、化学、物理学)及びコンピュータ技術について、平成 15 年度より新たに入門講座(生物学入門、化学入門、物理学入門、獣医のためのインターネット入門)を設けている。大学は、専門分野の質の向上を図るいっぽうで、学生が専門教育に耐えうるように基礎教育を行わなければならなくなり、カリキュラム改善の上でも考慮しなければならないこととなった。また、獣医学教育は 6 年間と長期間で、学生が獣医学に興味を持ち、動機を失わずに教育を受けることは重要で、そのような面で、低学年における動機付けの科目の配置等を考慮すべきであると考え。

カリキュラムの検討について、4 大学は時期に若干の差をみるが検討実施しており、1 大学は検討されていない。各大学は、附属動物病院におけるローテーション教育を行えるように施設を整え、臨床教育の充実、国際水準へ近づける努力をしている。また、いくつかの大学は科目に獣医眼科神経病学、獣医歯科学、獣医救急医療学、総合臨床、総合獣医学等、実践的な科目を取入れている。さらに、望ましいこととして、臨床教員の数と質も検討する必要があると考える。いっぽう、BSE、高病原性鳥インフルエンザをはじめ感染症と食品の安全、安心の問題が今後ますます重要視されることを考慮し、近未来、長期的視野に立った獣医学教育のカリキュラムを構築することが必要である。

2) 開講科目数と総単位(時間)数

各大学の開講科目数と総単位(時間)数は、獣医学教育の大綱化における単位数を大きくはみ出すことなく、また多くの科目を提供する目的で、選択科目を多く設けてきた。しかし、獣医学教育の国際化から、履修すべき科目が多くなり、対応として必修課目を増加せざるをえなくなっている。

3) 専門科目別授業時間数

各大学の専門科目別授業時間数は変更なしであるが、卒業時には、獣医学の基礎知識と技術、問題解決能力及び社会人としての教養を修得できるように設定することが重要であると思われる。

4) 実習時間数

実習時間数は、各大学とも変更なしであるが、教育効果の面から、少人数教育を実施しており、現在の教員数からみると、変更したくてもできない状況にあることが伺え、教員数の増加を検討することが必要である。

5) 実習用動物の使用頭数

各大学の実習用動物の使用頭数は、動物愛護の観点から平成6～10年度調査に比べ、平成11・12年度調査では大きく減少している。今回の、平成14年度および平成15年度調査では前回調査に比べ大きな変化をみないが、日本大学は、各実習科目間において実習用動物を融通するローテーションを組むことによって実習用動物の使用総頭数を減少させていることから、各大学でも工夫する必要がある。

動物愛護の観点から実習用動物の使用頭数を減らしているが、そのことが獣医学教育の質の低下、教育効果の面に影響を与えていないか等、検証すべきと考える。

6) 実習用動物の代替応用

実習用動物の代替応用は、前回の報告で、2大学が取り入れており、3大学が取り組みをしていないとあったが、今回は、3大学が取り入れており、2大学が取り組みをしていないとあった。今後、実習用動物の代替応用の取入れは生命倫理教育とあわせて検討導入すべきと考える。

7) 学生による授業評価システム導入

学生による授業評価システム導入は、大学の教育分野の教育目標と内容が、学生自身にどの程度理解されたかを学生の目を通して再検証し、学生の学習意欲や効果を引き出すとともに、教員が自らの教育を点検・評価するという点で極めて重要であると考えられる。

今回の調査では、いずれの大学も学生による授業評価システムを導入し、教員が授業の改善に利用しているとある。しかし、アンケート結果の公表は一律ではなく、自己点検の性格上、公表の義務は課していないとする大学と、一部公表または公表予定とする大学がある。

麻布大学ではアンケートの集計できる項目を学内 LAN に掲載し、だれもが閲覧できる状況としていると、評価公表を積極的に行っており評価できると考える。

今後の改善方向として、各大学は学生による授業評価を、同僚教員による教授法評価、教員の諸活動の定期的評価と同様に、FD 活動におけるアセスメント(査定、評価された価値)としてとらえるようにすべきと考える。

8) 卒業論文(課題研究)の発表方法

卒業論文(課題研究)の発表方法について、平成 14 年 6 月の相互評価報告書では、3 大学が公開の発表会を行い、2 大学が卒業論文の開示をおこなっていると報告している。獣医学教育のなかで、学生本人がプレゼンテーションを行えるように教育することは必要であり、教育効果の面からは公開の発表会を行うことが望ましいと考える。さらに、日本大学は、卒業論文の全体発表会を従来から実施してきたが、最近では、学科のホームページに各学生の論文テーマを公表し、5 年次学生を主体に下級学年の学生が発表会に参加しやすいように配慮していると積極的に公表していることから評価できる。各大学とも積極的に全体発表会を行うほうが、教育効果の面、獣医学科のアピール、教員、学生の資質向上からも望ましいと考える。

9) 授業科目の年次配当と授業計画(シラバス)の内容と更新状況

シラバスは、教育を受ける上で、科目の内容、授業の進行状況を知る上で必要なものである。当然、各大学はシラバスを作成し、学生に配布している。また、シラバスの調整、改善は組織的に行うことが重要と考える。限られた時間で多くのことを教授しなければならないこと、基本的に何をどこまで教育するのかを検討していくことで、シラバスといえるものができるので、各大学は教務委員会、FD 委員会等で検討していくことが望ましい。

各大学は、シラバス更新時に、更新されたシラバス内容をホームページ、新たに印刷して学生に配布、授業開始時のガイダンス等を利用して受講学生に変更を周知させていることで対応しているので評価できる。

10) 授業方法の改善状況

授業方法の改善状況について、環境整備の改善は、それぞれ新講義棟の増設、動物病院・動物医療センターの建設や増築、図書館の改築、生命科学共同研究施設が計画ないし実施されていることから評価できる。また、各大学は、講義室へ視聴覚教材を用いた教育を有効に実施するために液晶プロジェクターの設置・更新、IT 教育に対応できるようにパソコンの設置などにも取り組んでいる。さらに、教育環境を整えるために空調設備の設置なども行っている。

成績評価の明示や改善は、今後 GPA 方式の導入を検討する必要がある。そこで、各大学の成績評価の明示や改善を調査したが、4 大学は検討なし、1 大学が GPA 方式の導入を検討していた。

11) 単位互換制度

国内大学との単位互換制度は、酪農学園大学以外はその制度があるが、各大学とも平成14年度および平成15年度に変更をみななかった。なお、日本大学ではこの制度を利用している学生はいないとあった。

放送大学は、酪農学園大学、麻布大学の2大学が利用しているが、平成14年度および平成15年度に変更をみななかったと記載されている。国際化を目指す獣医学科は、学際領域、コミュニケーション教育、生命倫理教育など放送大学との連携を密にし、教育の質の向上をはかることが重要と考える。

さらに、各大学は、メディア教育の開発、eラーニングの導入、コンテンツの作成を始めつつあるが、諸外国の大学に比べ遅れているのが現状である。放送大学とは、このような分野で協力すべきであると考え。

国外大学との単位互換制度は、酪農学園大学、北里大学にあるが、平成14年度および平成15年度に変更をみななかった。日本大学は、現在、単位互換を実施し、または実施することを決定している国外大学が、米国のワシントン州大学1校と中国の研究施設1カ所である。なお、学部では学術協定校をはじめ海外の大学で履修した科目について単位を認定する制度が設けられており、すでに実績があると記載され、今後の充実を望むものである。日本獣医畜産大学、麻布大学は制度を整備する必要があると考える。

ただ、獣医学科は、必修の講義や実習が多く、他大学へ出かける時間的余裕がないことが単位互換を積極的に展開できないネックになっているのではないかと考える。

12) 他大学および他施設との教育協力体制

国内大学・国内他施設との教育協力体制について、酪農学園大学、日本獣医畜産大学は行っていない。北里大学、麻布大学は教育協力体制があるが、平成14年度および15年度に改善していない。しかし、日本大学は、COEプログラム並びに学術フロンティアなどの教育協力体制が存在し、他に各教員が独自で国内他大学の教員との教育協力体制を強化する努力を行っていることから、他の4大学は今後いっそう積極的に活動すべきと考える。国外大学との教育協力体制について、各大学とも海外の数大学と学術協定を締結し、大学院学生や学部学生の研修、教員の共同研究を展開しているが平成14年度および平成15年度に改善傾向がみられない。

13) 卒後教育および生涯教育制度

学部・院研究生の卒後教育および生涯教育制度について、日本獣医畜産大学は、動物医療センターの開設に伴い、卒後臨床研修委員会の名称を改め臨床研修委員会とし、臨床研修規程および運営細則の制定に努めている。また、日本大学は、附属病院において、診療業務とは別に主に開業臨床獣医師を対象にしたセミナーを毎月開催している。このセミナーは、卒業教育として有効に機能しており、日本獣医師会の生涯教育プログラムとしても認定を受けていて、臨床における生涯教育の展開がみられる。

卒後教育および生涯教育制度としての附属動物病院研修獣医について、日本大学は、

附属動物病院に有給研修医制度を設けている。他大学も研修獣医師が経済的に保障された制度を整備し、教育にあたるべきと考える。

卒業教育および生涯教育制度としての科目等履修生について、各大学は受け入れているが、平成14年度および平成15年度は内容に変更をみない。

卒業教育および生涯教育制度としての学会研修会講習会について、各大学ともセミナーを初め各種のシンポジウムを公開で実施しており、さらなる充実・展開を望むものである。今後、学会研修会講習会は大学として制度化をしていくべきものとする。

14) 社会的ネットワークの状況

社会的ネットワークの状況として、産学交流は重要である。日本大学は、研究成果並びに技術移転等を積極的に推進するために、TLOとして国際産業技術・ビジネスセンター(NUBIC)が設置されており、本組織の有効利用が図られているとあるが、他大学は平成14年度および平成15年度に内容に変更をみない。

地域交流について、日本獣医畜産大学は、市民との文化交流を目的とした公開講座、武蔵野地域5大学の学生と一緒に大学の講義を受講できる制度の武蔵野地域自由大学(市民大学)が平成15年度に発足した。また自治体(武蔵野市)の寄附講座が開講されたとあり、日本大学は本学部では市民講座、公開講座、理科実験セミナー、資料館公開、公民館共催講座などを通して地域との交流を図っている。現在、これらの活動のさらなる活性化が学部レベルで検討されているとあり、大学の生き残りをかけて、国際化と同時に地域に密着した大学であることも重要と考え、今後の検討発展を望むものである。

国際交流について、各大学は学術交流協定を積極的に行っており評価できる。

今後、社会的ネットワークの状況の調査項目は、具体的な記載ができるように整理する必要があると考える。

15) 倫理教育の取組み

人の健康、動物の命に携わる獣医師にとって、生命観・倫理観養成の教育、職業倫理教育は重要である。日本獣医畜産大学は、教育目標として、生命倫理、動物愛護、福祉及び地球環境の保全等に貢献する獣医師を育てる教育システムを構築している。具体的には低学年に自然科学概論、心理学概論、獣医学概論など、高学年に獣医倫理学、獣医畜産法規を開設している。

他大学も積極的にこの分野の教育を行っていると考えられるが、この分野の教員は十分に確保できているのか、今後検証すべきであろう。

16) 実践・実務能力を醸成する教育

獣医学を修める者にとって、実践・実務能力を醸成する教育を行うことは重要である。そこで、ケーススタディーを考慮した授業を取り入れる事は必要であり、各大学では、臨床教育のなかで、積極的に展開されている。なお、日本大学は基礎系学科目における演習などにおいて、ケーススタディーを導入する試みが始められている。

ディベートを教育手法として考慮した授業は、獣医学の専門科目で行うのは難しいと思われる。各大学はいずれも実施していないと記載している。しかし、日本大学は演習科目等において、教員・学生間の2方向授業を試みる教員もおり、将来的には主要教育手法としてディベートが導入されることが期待されているとあり、専門以外の教育において取入れる場合も今後想定される。

各大学はフィールドワークに基づいた授業を実施している。平成14年度および平成15年度の変更として、酪農学園大学は、研究室実習で教員の診療に随伴、酪農実習Ⅱでは農家に寄宿させている。日本獣医畜産大学は、附属施設、学外の研修施設を利用して、少人数による集中実習、グループ実習を実施している。麻布大学は平成15年度から新カリキュラムで専門学外実習を設定し、獣医師の職域における実習を必須化した。日本大学は臨床系学科目並びに応用系学科目の多くにおいて、フィールドワークの拡大・充実が図られている。さらに、インターンシップとフィールドワークの連繫を模索している。と各大学は積極的に取り組んでいる。

17) 創造的な教育プロジェクトの実施

創造的な教育プロジェクトの実施について、麻布大学は獣医学分野における感染症診断・解析技術に関する教育体制の確立、環境毒性学実習に関する教育体制の確立をプロジェクトとして立ち上げて実施している。日本大学は数年前から動物医科学センター構想が立ち上がり、16年度の文部科学省の学術フロンティアに採択された。この成果は、創造的な教育・研究プログラムが評価された結果であると思料するとしている。

18) 教育満足度調査

教育満足度調査は、自己点検、評価の上でも重要な調査である。酪農学園大学は、卒業式当日のアンケートを目安箱制度に転換して行っているとあったが、他大学での実施をみなかった。

4. 自己点検・評価体制

自己点検・評価体制の一つとして、ファカルティディベロップメント(FD)委員会は、教員の資質開発など組織的に行う上で重要な委員会である。現在、各大学のFD委員会は、活発な活動状況はなく、早急な改善が望まれる。

5. 教育の国際化対応

教育の国際化対応として、コミュニケーション手段は重要であり、日本大学はLocal Area Network(LAN)の充実を図り、海外とのコミュニケーションインフラの拡大を努めている。また、学生に対する国際化対応(コミュニケーション)にはネイティブ・スピーカーによるキャリアイングリッシュ講座を学部レベルで開設したとあるが、他大学では行っていない。

国外の大学との単位交換について、日本大学は公式な単位互換協定が米国ワシントン州立大学獣医学部との間で締結されており、5年次学生を主体に夏期休暇を利用して30~40

名の学生がこの制度によって単位を修得しているとあるが、他大学では実施されていない。また、国外の大学との遠隔授業は、各大学で実施されていない。

教育の国際化といいながら、日本大学以外は改善の努力がみられず、検討、改善を望むものである。

6. 獣医師国家試験の合格状況

獣医師国家試験の合格状況は表のとおりであるが、日本大学は、獣医師国家試験の合格率向上を目標に教員研修会を開催し、意見交換を行い、教育研究指導の改善を図っている。また、6年次後期授業スケジュールの見直し、学生の受験環境の改善・確保を図っている。他大学は平成14年度および平成15年度に変更などの記載がない。

各大学の教育の主眼は、高度専門職業人としての獣医師養成にある点で一致していることから、まず獣医師国家試験の合格率を向上させることにあり、全国平均以下の合格率の大学は教育内容の点検をすべきであると考えられる。

最後に、大学評価は評価主体に分けると、自己評価、相互評価、第三者評価(外部評価)がある。また、進行状況をチェックする形成的評価、最終的に評価する総括評価がある。今回、私立獣医科大学協会としては、5私立獣医科大学を相互評価して2年経過したことから、各大学の短期改善状況を調査した。いずれ総括評価を行わなければならないが、各大学が特色を出し社会から評価される大学となるように、次へのステップへ、つなぎの役割ができる報告書となることを願って終わりにする。

IV. 大学別獣医学教育の充実における短期改善目標の達成度調査資料

酪農学園大学 獣医学部 獣医学科

獣医学教育の充実における短期改善目標の達成度調査

調査票

(平成16年9月実施：私立獣医科大学協会)

大学名・学部名・学科名

酪農学園大学・
(回答責任者：石原智明)

I. 教育の理念・目的・目標について

1. 平成14(2002)年6月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1-1. 理念・目的・目標の達成へ向けての平成14年度、平成15年度における改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

理念・目的・目標は設定済み
変更無し

1-2. 大学の個性・特徴の明示

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

個性・特徴は設定済み
変更無し

2. 公表方法と周知への取組み

2-1. 学内(教職員・学生)への公表

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

2-2. 学外への公表

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

II. 教育・研究・事務組織について

平成14(2002)年6月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1. 教育組織の平成14年度、平成15年度における改善

1-1. 教育の組織

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し、但し平成16年度より臨床系教室を再編

1-2. 教員の適正配置

有 ・ ○無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し、但し平成 16 年度に臨床系教授 1 名を増員

1-3. 学生収容数と在籍学生数の比率

年 度	学生収容数	入学定員	教員数	支援者数	在籍学生数
平成 14	720	120	50	54	859(5 月 1 日現在)
平成 15	720	120	50	54	874

有 ・ ○無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

1-4. 実験実習の人的補助体制

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

ティーチング・アシスタント制
変更無し

1-5. 教育活動の評価システムの確立

有 ・ ○無 (該当する方に○)

変更内容記載

2. 研究組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

2-1. 研究の組織

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し。但し臨床系教育組織を平成 16 年度に改組

2-2. 研究費配分

年 度	個 人	グループ
平成 14	50 万円/人	
平成 15	50 万円/人	傾斜配分 5 万円/人

変更内容記載

平成 15 年度より、傾斜配分として 5 万円を上限に上乗せ

2-3. 科学研究費補助金

年度	申請数	採択数
平成 14	39	19
平成 15	32	15

変更内容記載

変更無し

2-4. 研究助成金

年度	申請数	採択数
平成 14	35	13
平成 15	21	2

変更内容記載

変更無し

2-5. その他の外部資金

年度	申請数	採択数
平成 14	1	1
平成 15	2	2

変更内容記載

変更無し

3. 事務組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

3-1. 事務の組織

変更内容記載

変更無し。但し新病院開設に伴い H16 年度より病院事務長を置く

3-2. 職員の適正配置

変更内容記載

変更無し。但し H16 年度より病院事務長 1 名を新たに配置

Ⅲ. 教育課程の充実度

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況、特に獣医学教育の国際化水準へ向けての改善

1. カリキュラムの改善

変更内容記載

平成 13 年度開設カリキュラムより、総合獣医および総合臨床実習として漸次的改善をねらう

2. 開講科目数と総単位(時間)数

教養科目				専門科目				総計			
開講科目数		単位数		開講科目数		単位数		開講科目数		単位数	
必須	選択	必須	選択	必須	選択	必須	選択	必須	選択	必須	選択
10	31	14	57	79	47	116	72	89	78	130	129

変更内容記載

変更無し

3. 専門科目別授業時間数

実証分野		応用分野		基盤分野		関連分野		総計	
開講科目数	単位数								
28	34	25	32	23	34	50	88	126	188

変更内容記載

変更無し

4. 実習時間数

実証分野		応用分野		基盤分野		関連分野		総計	
開講科目数	単位数								
10	10	8	9	8	12	6	9	32	40

変更内容記載

変更無し

5. 実習用動物の使用頭数

年度	総頭数	総頭数/学生数	牛	馬	豚	犬・猫	実験動物(げっ歯類)	その他
平成 14	3202	3202/859	414	112	0	159・18	2041	458
平成 15	5186	5186/874	525	104	0	110・0	2523	1924

変更内容記載

変更無し

6. 実習用動物の代替応用の有無

年 度 代替応用の有無

平成 14 ○有 ・ 無 (該当する方に○)

平成 15 ○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

7. 学生による授業評価システム導入の有無

7-1. アンケート

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 14 年度より毎年実施

7-2. 任意

有 ・ ○無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

7-3. 評価公表

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 15 年度より毎年実施

7-4. 改善

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 15 年度より毎年実施

8. 卒業論文(課題研究)の発表方法

8-1. 全体発表会

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

8-2. 論文の開示・展示

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

9. 授業科目の年次配当と授業計画(シラバス)の内容と更新状況

9-1. 年次配当の検討

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 13 年度改定カリキュラムより実施

9-2. シラバス毎年更新

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

9-3. シラバス更新時の対応

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 15 年度より、シラバスをホームページに掲載

10. 授業方法の改善状況

10-1. 環境整備の改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 14 年度新講義棟増設。平成 15 年度新家畜病院建設

10-2. 教員組織の改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し。但し、平成 16 年度より臨床系教室を改組

10-3. 授業方法の改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 13 年度開設カリキュラムで、臨床系の講義・実習を中心に漸次的改善をねらう

10-4. 成績評価の明示や改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

1 1. 単位互換制度の有無

11-1. 国内大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

11-2. 放送大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

11-3. 国外大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

1 2. 他大学および他施設との教育協力体制の有無

12-1. 国内大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

12-2. 国内他施設

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

12-3. 国外大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

1 3. 卒後教育および生涯教育制度の有無

13-1. 学部・院研究生

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

13-2. 附属動物病院研修獣医

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

13-3. 科目等履修生

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

13-4. 学会研修会講習会

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し。大動物臨床教育(しゃくなげ会)など

14. 社会的ネットワークの状況

14-1. 産学交流

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

14-2. 地域交流

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

14-3. 国際交流

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し。オハイオ州立大、東フィリッピン大、ハノーバー大

15. 倫理教育の取組み

15-1. 生命観・倫理観養成の教育

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

キリスト教ほか

15-2. 職業倫理教育の体系化

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

獣医学総合講義ほか

16. 実践・実務能力を醸成する教育

16-1. ケーススタディを考慮した授業

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

総合臨床実習の一部でポリクリを実施

16-2. ディベートを考慮した授業

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

16-3. フィールドワークを考慮した授業

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

研究室実習で教員の診療に随伴。酪農実習Ⅱでは農家に寄宿

16-4. 少人数教育の実施

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

総合臨床実習でのポリクリ、専修教育におけるコース制ほか

17. 創造的な教育プロジェクトの実施

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

18. 教育満足度調査

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

卒業式当日のアンケートを目安箱制度に転換し、通年実施

IV. 自己点検・評価体制

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1. ファカルティディベロップメント(FD)委員会

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 14 年度設置

2. FD 委員会活動内容

2-1. 教員相互の評価

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

2-2. 学生による授業評価

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 14 年度より毎年実施

V. 教育の国際化対応

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

教育の国際化対応として

1. コミュニケーション手段への配慮

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

2. 国外の大学との単位交換

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

3. 国外の大学との遠隔授業

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

VI. 獣医師国家試験の合格状況

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

年 度	受験者数	合格者数	合格率
平成 14	130	114	87.7
平成 15	151	145	96.0

変更内容記載

変更無し

北里大学 獣医畜産学部 獣医学科

獣医学教育の充実における短期改善目標の達成度調査

調 査 票

(平成16年9月実施：私立獣医科大学協会)

大学名・学部名・学科名

北里大学・獣医畜産学部
(回答責任者：吉川 博康)

I. 教育の理念・目的・目標について

1. 平成14(2002)年6月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1-1. 理念・目的・目標の達成へ向けての平成14年度、平成15年度における改善

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

1-2. 大学の個性・特徴の明示

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

2. 公表方法と周知への取組み

2-1. 学内(教職員・学生)への公表

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

2-2. 学外への公表

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

II. 教育・研究・事務組織について

平成14(2002)年6月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1. 教育組織の平成14年度、平成15年度における改善

1-1. 教育の組織

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

16年度から変更

1-2. 教員の適正配置

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

16年度から変更中、現在57名に向け対応中

1-3. 学生収容数と在籍学生数の比率

年度	学生収容数	入学定員	教員数	支援者数	在籍学生数
平成14	720	120	50	18	866
平成15	720	120	50	19	867

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

支援者数の削減。在籍学生数の増

1-4. 実験実習の人的補助体制

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

ティーチングアシスタントの増員

1-5. 教育活動の評価システムの確立

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

2. 研究組織の平成14年度、平成15年度における改善

2-1. 研究の組織

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

2-2. 研究費配分

年度	個人	グループ
平成14	教授250千円 助教授・講師・助手200千円	講座2000千円
平成15	教授250千円 助教授・講師・助手200千円	講座2000千円

変更内容記載

2-3. 科学研究費補助金

年度	申請数	採択数
平成14	55	14
平成15	52	13

変更内容記載

2-4. 研究助成金

年 度	申請数	採択数
平成 14	17	7
平成 15	16	12

変更内容記載

--

2-5. その他の外部資金

年 度	申請数	採択数
平成 14	22	22
平成 15	19	19

変更内容記載

*受託研究です

3. 事務組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

3-1. 事務の組織

変更内容記載

なし

3-2. 職員の適正配置

変更内容記載

なし

Ⅲ. 教育課程の充実度

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況、特に獣医学教育の国際化水準へ向けての改善

1. カリキュラムの改善

変更内容記載

--

2. 開講科目数と総単位(時間)数

教 養 科 目		専 門 科 目		総 計					
開講科目数	単 位 数	開講科目数	単 位 数	開講科目数	単 位 数				
必須8	選択51	必須18	選択103	必須55	選択36	必須143	選択47	必須63	選択8

7 必須152 選択150

変更内容記載

教養科目の増設

3. 専門科目別授業時間数

実証分野	応用分野	基盤分野	関連分野	総計
開講14 単位数35	開講9 単位数14	開講16 単位数47	開講 単位数	開講39 単位数96
科目数	科目数	科目数	科目数	科目数

変更内容記載

4. 実習時間数

実証分野	応用分野	基盤分野	関連分野	総計
開講7 単位数14	開講3 単位数3	開講8 単位数16	開講 単位数	開講18 単位数33
科目数	科目数	科目数	科目数	科目数

変更内容記載

5. 実習用動物の使用頭数

年度	総頭数	総頭数/学生数	牛	馬	豚	犬・猫	実験動物(げっ歯類)
平成14	583	1.0	5	1	0	40	583
平成15	595	1.0	5	1	0	40	595

変更内容記載

6. 実習用動物の代替応用の有無

年度 代替応用の有無

平成14 有○・無 (該当する方に○)

平成15 有○・無 (該当する方に○)

変更内容記載

7. 学生による授業評価システム導入の有無

7-1. アンケート

有○・無 (該当する方に○)

変更内容記載

7-2. 任意

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

7-3. 評価公表

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

--

7-4. 改善

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

--

8. 卒業論文(課題研究)の発表方法

8-1. 全体発表会

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

8-2. 論文の開示・展示

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

9. 授業科目の年次配当と授業計画(シラバス)の内容と更新状況

9-1. 年次配当の検討

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

--

9-2. シラバス毎年更新

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

9-3. シラバス更新時の対応

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

16年度から新カリキュラムに変更

10. 授業方法の改善状況

10-1. 環境整備の改善

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

講義室への液晶プロジェクターの設置・更新、エアコンの設置、図書館の改築

10-2. 教員組織の改善

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

現在、57名の定員枠の補充中

10-3. 授業方法の改善

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

10-4. 成績評価の明示や改善

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

11. 単位互換制度の有無

11-1. 国内大学

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

11-2. 放送大学

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

11-3. 国外大学

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

12. 他大学および他施設との教育協力体制の有無

12-1. 国内大学

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

12-2. 国内他施設

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

12-3. 国外大学

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

1 3. 卒後教育および生涯教育制度の有無

13-1. 学部・院研究生

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

13-2. 附属動物病院研修獣医

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

13-3. 科目等履修生

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

13-4. 学会研修会講習会

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

1 4. 社会的ネットワークの状況

14-1. 産学交流

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

14-2. 地域交流

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

14-3. 国際交流

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

15. 倫理教育の取組み

15-1. 生命観・倫理観養成の教育

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

15-2. 職業倫理教育の体系化

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

--

16. 実践・実務能力を醸成する教育

16-1. ケーススタディを考慮した授業

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

16-2. ディベートを考慮した授業

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

16-3. フィールドワークを考慮した授業

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

16-4. 少人数教育の実施

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

17. 創造的な教育プロジェクトの実施

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

18. 教育満足度調査

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

IV. 自己点検・評価体制

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1. ファカルティディベロップメント(FD)委員会

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

2. FD 委員会活動内容

2-1. 教員相互の評価

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

2-2. 学生による授業評価

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

V. 教育の国際化対応

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

教育の国際化対応として

1. コミュニケーション手段への配慮

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

2. 国外の大学との単位交換

有○ ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

3. 国外の大学との遠隔授業

有 ・ 無○ (該当する方に○)

変更内容記載

VI. 獣医師国家試験の合格状況

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

年 度	受験者数	合格者数	合格率
平成 14	140	128	91.4
平成 15	131	128	97.7

変更内容記載

--

日本獣医畜産大学 獣医学部 獣医学科

獣医学教育の充実における短期改善目標の達成度調査

調査票

(平成16年9月実施：私立獣医科大学協会)

大学名・学部名・学科名

日本獣医畜産大学・獣医学部・獣医学科 (回答責任者：大石 巖)

I. 教育の理念・目的・目標について

1. 平成14(2002)年6月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1-1. 理念・目的・目標の達成へ向けての平成14年度、平成15年度における改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学の教育理念に「敬讓と協調」「慈愛と人倫」を育む科学の創生を培い、新世紀における生命科学・環境科学・食品時代の開拓者として総合的な生命科学の知と技を練磨するとともに人間愛・動物愛の豊かな人材育成を柱に掲げ、この考え方に沿った教育目標が掲げられている。獣医学教育や小動物に対する社会的変化に対応するため、平成15年から獣医学部・獣医学科とし、これに応用生命学部を加えた2学部とするなどの改善を行った。

1-2. 大学の個性・特徴の明示

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

大学の立地性などにより一部制約はあるが、実験・実習を重視し各科目間との有機的連携を図っている。低学年における大動物の体験実習、高学年における伴侶動物と大・中動物の疾病を実際に診断・治療し、その成果を検討し合う「臨床総合実習」は特徴ある内容といえる。

2. 公表方法と周知への取組み

2-1. 学内(教職員・学生)への公表

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

理念・目的・教育目標等を教職員、学生、受験生を含む社会一般の人々に対して公的な刊行物やホームページ等によって周知している。

2-2. 学外への公表

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

ホームページ、パンフレット、刊行物(自己点検・評価報告書)等で公表している。

**獣医学教育の充実における短期改善目標の達成度調査
調 査 票**

大学名・学部名・学科名

(回答責任者：清水一政)

II. 教育・研究・事務組織について

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1. 教育組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

1-1. 教育の組織

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

動物医療センターが平成 15 年 6 月に竣工し、臨床系教員は 18 名に若干増え臨床教育の基盤整備が進行中である。専門教育スタッフは 59 名であり、さらなる教員・支援者数の増員が必要であると考えている。

1-2. 教員の適正配置

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 16 年度より臨床教育の充実を目的とし、現行の臨床系教科の比率 35%、非臨床系教科の比率 65%であるところを、臨床系教科の比率を 50%に増加するようにした。これに伴って専任教員の適正配置に努め臨床系教員の増員を図っている。

1-3. 学生収容数と在籍学生数の比率

年 度	学生収容数	入学定員	教員数	支援者数	在籍学生数
平成 14	480	80	57	36	625
平成 15	480	80	58	40	623

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

学生収容数と在籍学生数の比率は 1.3 であるが、徐々に入学者数を減じており、16 年度には定員超過率を 1.2 とすることとしている。

1-4. 実験実習の人的補助体制

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

人的補助体制は引き続き維持している。

1-5. 教育活動の評価システムの確立

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

従来実施してきた学生による授業評価のあり方を見直し、今後評価結果の集計データを整理し、各教員の自己点検・評価を促すこととしている。

2. 研究組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

2-1. 研究の組織

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

動物医療センター、生命科学共同研究施設の開設、さらにはハイテクリサーチセンターの設置が予定されており、相互協力による高度の研究体制が確立されつつある。

2-2. 研究費配分

年度	個人	グループ
平成 14	0	0
平成 15	0	0

変更内容記載

平成 16 年度からハイテクリサーチセンター (グループ) へ共同研究費を配分する予定である。

2-3. 科学研究費補助金

年度	申請数	採択数
平成 14	30	8
平成 15	47	9

変更内容記載

全教員へ申請を促し、採択率の向上に努めている。

2-4. 研究助成金

年度	申請数	採択数
平成 14	9	9
平成 15	7	7

変更内容記載

2-5. その他の外部資金

年度	申請数	採択数
平成 14	1	1
平成 15	2	2

変更内容記載

3. 事務組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

3-1. 事務の組織

変更内容記載

教育・研究活動を支援する上で適切な事務組織を整備しており、教学組織との連携もとられ、これをサポートする体制も機能している。また職員の研修会などへの参加も積極的に行われ、人事評価制度も導入されており、人材の育成にも努めている。

3-2. 職員の適正配置

変更内容記載

本学は平成 15 年度から獣医畜産学部を改組して 2 学部 3 学科となり、事務組織は総合的に運営されているが、学部及び研究科の関係業務を一括して事務部が担当しており、円滑な運営を行うためにも職員の増員が望まれる。

獣医学教育の充実における短期改善目標の達成度調査

調査票

(平成16年9月実施：私立獣医科大学協会)

大学名・学部名・学科名

日本獣医畜産大学・獣医学部・獣医学科

(回答責任者：今井壯一)

(III). 教育課程の充実度

平成14(2002)年6月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況、特に獣医学教育の国際化水準へ向けての改善

1. カリキュラムの改善

変更内容記載

前回改訂(平成9年度)のカリキュラム実施中のため、大幅な変更なし。ただし、高等学校で履修が不十分であった、理科系科目(生物学、化学、物理学)及びコンピュータ技術については、それぞれそれを補うため、平成15年度より新たに入門講座(生物学入門、化学入門、物理学入門、獣医のためのインターネット入門)を設けた。なお、平成16年度より大幅なカリキュラム改訂を行い、実施する予定である。すなわち、実践的な専門教育を充実させ、基礎的な実証分野を含めた基礎、応用科目を4年次までにほぼ終了し、5、6年次には実践的な実証分野及び応用分野を配置する。1年次にはアーリー・エクスポージャーとして、臨床体験実習を設置し、3、4年次では内科学、外科学を臓器別を中心とした、より具体的な講義名称で区分する。5年次後期及び6年次前期では、実習を主体とし、小人数のチームを作成し、各チームが離合集散しながら付属病院、附属牧場、臨床病理検査、公衆衛生施設、病院インターンシップなどでラウンドする実習形態とする。また、6年次学生が本実習中、1年次学生のアーリー・エクスポージャーの指導も併せて行うことも盛り込む予定である。また、従来の選択必修科目の内容を大幅に変更し、より実践的な獣医眼科神経病学、獣医歯科学、獣医救急医療学などを配することになっている。

2. 開講科目数と総単位(時間)数

教養科目		専門科目				総計					
開講科目数	単位数	開講科目数	単位数	開講科目数	単位数						
必須	選択	必須	選択	必須	選択	必須	選択				
0	46	0	46	60	43	166	43	60	66	226	89

変更内容記載

専門科目必修開講科目166単位中、50単位は選択必修科目である。前回改訂のカリキュラム実施中のため、入門講座の新設の他大幅な変更はない。

3. 専門科目別授業時間数

実証分野		応用分野		基盤分野		関連分野		総計	
開講科目数	単位数								
21	37	7	10	37	82	3	6	68	135

変更内容記載

前回改訂のカリキュラム実施中のため変更なし。

4. 実習時間数

実証分野		応用分野		基盤分野		関連分野		総計	
開講科目数	単位数								
7	15	5	5	6	13	1	6	19	39

変更内容記載

前回改訂のカリキュラム実施中のため変更なし。

5. 実習用動物の使用頭数

年度	総頭数	総頭数/学生数	牛	馬	豚	犬・猫	実験動物 (げっ歯類)
平成 14	1 1 0 1	1. 8 4	1 8	2	0	1 0 8	9 7 3
平成 15	1 0 3 5	1. 7 3	1 4	2	0	1 0 0	9 1 9

変更内容記載

6. 実習用動物の代替応用の有無

年 度	代替応用の有無
平成 14	有 ・ ○無 (該当する方に○)
平成 15	有 ・ ○無 (該当する方に○)

変更内容記載

7. 学生による授業評価システム導入の有無

7-1. アンケート

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

アンケート方法は前年度と同様に実施している。平成16年度よりアンケート方法の改訂を行い、結果の一部を公表することを予定している。

7-2. 任意

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

前年度と変更なし。

7-3. 評価公表

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

現在実施していないが、平成16年度より実施予定。

7-4. 改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

8. 卒業論文(課題研究)の発表方法

8-1. 全体発表会

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

現在のところ変更なし。

8-2. 論文の開示・展示

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

現在のところ変更なし。

9. 授業科目の年次配当と授業計画(シラバス)の内容と更新状況

9-1. 年次配当の検討

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更なし。更新を検討中である。

9-2. シラバス毎年更新

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

前年度に引き続き、毎年改訂を行っている。

9-3. シラバス更新時の対応

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更のあったシラバスについては各科目毎に新たに印刷し、学生に配布している。

10. 授業方法の改善状況

10-1. 環境整備の改善

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成15年度に動物医療センター及び生命科学共同実験施設が新たに竣工した。

10-2. 教員組織の改善

有 ・ 無 （該当する方に○）

変更内容記載

現在検討中である。

10-3. 授業方法の改善

有 ・ 無 （該当する方に○）

変更内容記載

動物医療センターの竣工に伴い、AV 機器やコンピュータを用いた、よりビジュアルな授業が飛躍的に改善した。また、より高度な臨床実習が可能となった。

10-4. 成績評価の明示や改善

有 ・ 無 （該当する方に○）

変更内容記載

前年度と同様、各学期の成績は学科、学年毎に○×方式で掲示されている。実点や評価内容の明示については教員の裁量にまかされている。

11. 単位互換制度の有無

11-1. 国内大学

有 ・ 無 （該当する方に○）

変更内容記載

従来の武蔵野地区5大学間での単位互換制度を行っている。

11-2. 放送大学

有 ・ 無 （該当する方に○）

変更内容記載

11-3. 国外大学

有 ・ 無 （該当する方に○）

変更内容記載

現在検討中である。

12. 他大学および他施設との教育協力体制の有無

12-1. 国内大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

12-2. 国内他施設

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

特段の変更はない。

12-3. 国外大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

新たにタイ王国のコンケン大学及びカセサート大学との間で教育協力体制が発足している。

13. 卒後教育および生涯教育制度の有無

13-1. 学部・院研究生

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

動物医療センターの開設に伴い、卒後臨床研修委員会の名称を改め臨床研修委員会とし、臨床研修規程および運営細則の制定に努めている。

13-2. 附属動物病院研修獣医

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

臨床研修プログラムを作成し、平成15年度は10名の研修獣医師を採用している。

13-3. 科目等履修生

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

科目等履修生の受け入れは行っている。

13-4. 学会研修会講習会

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

引き続き行っている。

14. 社会的ネットワークの状況

14-1. 産学交流

有 ・ ○無 (該当する方に○)

変更内容記載

推進を図る準備段階にある。

14-2. 地域交流

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

市民との文化交流を目的とした公開講座、武蔵野地域5大学の学生と一緒に大学の講義を受講できる制度の武蔵野地域自由大学(市民大学)が平成15年度に発足した。また自治体(武蔵野市)の寄附講座が開講された。

14-3. 国際交流

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成15年度までに中国、タイ(2大学)、韓国、ベトナムの5つの獣医学系大学との学術交流が行われており、16年度中にはオーストラリアのクインズランド大学との学術交流協定を締結する予定である。

15. 倫理教育の取組み

15-1. 生命観・倫理観養成の教育

○有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

教育目標として、生命倫理、動物愛護、福祉及び地球環境の保全等に貢献する獣医師を育む教育システムを構築している。具体的には低学年次には自然科学概論、心理学概論、獣医学概論など、高学年次には獣医倫理学、獣医畜産法規を開講している。

15-2. 職業倫理教育の体系化

有 ・ ○無 (該当する方に○)

変更内容記載

現在検討中である。

16. 実践・実務能力を醸成する教育

16-1. ケーススタディを考慮した授業

有 ・ ○無 (該当する方に○)

変更内容記載

特に行っていない

16-2. ディベートを考慮した授業

有 ・ ○無 (該当する方に○)

変更内容記載

特に行っていない

16-3. フィールドワークを考慮した授業

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学の付属施設、学外の研修施設を利用して、少人数による集中実習、グループ実習を実施している。

16-4. 少人数教育の実施

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

専門実習科目はすべて各班(6-8名)に分け、班毎に実習を行う。講義については、現在準備段階にある。各教室(研究室)への入室制度により、専門外国語、コンピュータ利用法、卒業論文の作成等を行っている。

17. 創造的な教育プロジェクトの実施

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

実施していない

18. 教育満足度調査

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

授業に関するアンケート調査を各科目について行っている。

IV. 自己点検・評価体制

平成14(2002)年6月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1. ファカルティディベロップメント(FD)委員会

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

委員会としては立ち上げていない。

2. FD委員会活動内容

2-1. 教員相互の評価

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

教員相互の評価は行っていないが、各教員は教育責任の認識、シラバスの作成とこれに基づく授業方法の改善、オフィスアワーの設定、あるいは情報システム利用による講義資料の公開に努めている。

2-2. 学生による授業評価

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

全ての授業について統一した項目を用いて実施しているが、必ずしも回収率は高くない。これを是正するため新たなアンケート用紙(マークシート方式)を作成し、集計データを学生に公表すべき準備段階にある。

V. 教育の国際化対応

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況
教育の国際化対応として

1. コミュニケーション手段への配慮

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

国外の5大学との学術交流協定に基づく学生及び教員の交流を行っており、国際化への対応に努めている。

2. 国外の大学との単位交換

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

実施していない

3. 国外の大学との遠隔授業

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

行っていない。

VI. 獣医師国家試験の合格状況

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

年 度	受験者数	合格者数	合格率
平成 14	95	86	90, 5
平成 15	99	92	92, 9

変更内容記載

麻布大学 獣医学部 獣医学科

獣医学教育の充実における短期改善目標の達成度調査

調査票

(平成16年9月実施：私立獣医科大学協会)

大学名・学部名・学科名

麻布大学 獣医学部 獣医学科
(回答責任者：有嶋 和義)

I. 教育の理念・目的・目標について

1. 平成14(2002)年6月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1-1. 理念・目的・目標の達成へ向けての平成14年度、平成15年度における改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学の建学の精神は「学理の討究と誠実なる実践」である。この校風を受け継ぎ、人と動物との共存及び人と自然環境との調和を理念に次のとおり目標を掲げる。1、獣医学教育と社会的責任の認識。2、国際的視野の開発と養成。3、食料の安定供給と安全性の確保の認識。4、環境保全の重要性の認識。5、生命科学の理解と応用する能力の開発。6、生命・社会倫理観と伴侶動物獣医療の理解

1-2. 大学の個性・特徴の明示

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学は獣医学教育の国際化へ向けて平成15年度入学生からカリキュラムを変更し、専門を5系で教育することと5年次に動物病院を中心とした小動物臨床実習、産業動物臨床実習、それから環境毒性学実習のローテーション教育の開始を明示した。

2. 公表方法と周知への取組み

2-1. 学内(教職員・学生)への公表

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

シラバス、大学のホームページ、大学パンフレットで周知させている。

2-2. 学外への公表

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

シラバス、大学のホームページ、大学パンフレットで周知させている。

II. 教育・研究・事務組織について

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1. 教育組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

1-1. 教育の組織

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

これまで獣医学の専門教育は基礎獣医学系、臨床獣医学系、応用獣医学系の 3 系で行なってきたが、獣医学教育が国際化に対応できるように、人と動物の共存に貢献するという社会の要請に答えられるように獣医学教育を行うために、基礎獣医学系、病態獣医学系、生産獣医学系、臨床獣医学系、環境獣医学系の 5 系に構築し、これらの分野を教育単位として機能的、効果的に組織した。

1-2. 教員の適正配置

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

1-3. 学生収容数と在籍学生数の比率

年度	学生収容数	入学定員	教員数	支援者数	在籍学生数
平成 14	720	120	61	23	930
平成 15	720	120	60	28	921

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

1-4. 実験実習の人的補助体制

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

ティーチングアシスタント制度を利用し、実験実習の補助体制を行なっている。

1-5. 教育活動の評価システムの確立

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

2. 研究組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

2-1. 研究の組織

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

2-2. 研究費配分

年度	個人	グループ
平成 14	100 万円/人	
平成 15	100 万円/人	

変更内容記載

変更無し

2-3. 科学研究費補助金

年度	申請数	採択数
平成 14	39	7
平成 15	45	7

変更内容記載

変更無し

2-4. 研究助成金

年度	申請数	採択数
平成 14	15	13
平成 15	17	10

変更内容記載

変更無し

2-5. その他の外部資金

年度	申請数	採択数
平成 14	47	47
平成 15	39	39

変更内容記載

変更無し

3. 事務組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

3-1. 事務の組織

変更内容記載

1、平成 15 年 4 月 1 日から、今後強化すべき学園の業務(企画、施設整備、学生募集、広報等)に対応すると共に、課等の中の事務分掌を整理した。

3-2. 職員の適正配置

変更内容記載

1、平成 15 年 4 月 1 日から、現在の課等の数を増加することなく、「管理の幅」を適正化する。このため、課等の規模の適正化(4~10 人程度)、課長等の職務分担の均等化を図った。

Ⅲ. 教育課程の充実度

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況、特に獣医学教育の国際化水準へ向けての改善

1. カリキュラムの改善

変更内容記載

平成 15 年度入学者適用のカリキュラムの変更

2. 開講科目数と総単位(時間)数

教養科目		専門科目		総計	
開講科目数 43 科目	単位数 83 単位	開講科目数 74 科目	単位数 130 単位	開講科目数 117 科目	単位数 213 単位
必須 17 選択 40	必須 5 選択 78	必須 68 自由 6	必須 142 自由 9	必須 85 選択 40 自由 6	必須 159 選択 23

変更内容記載

これまで基礎獣医学系、臨床獣医学系、応用獣医学系の 3 系で行なってきた教育を、獣医学教育の国際化並びに人と動物の共存に貢献するという社会の要請にあった獣医学教育を行うために、基礎獣医学系、病態獣医学系、生産獣医学系、臨床獣医学系、環境獣医学系の 5 系にし、機能的、効果的カリキュラムを構築した。

3. 専門科目別授業時間数

実証分野	応用分野	基盤分野	関連分野	総計
開講単位数 36 単位	開講単位数 7 単位	開講単位数 39 単位	開講単位数 19 単位	開講単位数 101 単位
科目数 11 科目	科目数 4 科目	科目数 17 科目	科目数 10 科目	科目数 42 科目

変更内容記載

終了時に獣医学の基礎知識と技術、問題解決能力及び社会人としての教養を修得できるように設定した。そこで、基礎科目 40 単位を設定し、専門科目 142 単位を必修科目として設定した。
また、社会からの要請及び学生からの要望に対応できるよう、自由科目 10 単位と定期的なセミナーを提供する。

4. 実習時間数(演習を含む)

実証分野	応用分野	基盤分野	関連分野	総計
開講単位数 12 単位	開講単位数 2 単位	開講単位数 12 単位	開講単位数 15 単位	開講単位数 41 単位
科目数 9 科目	科目数 1 科目	科目数 8 科目	科目数 5 科目	科目数 23 科目

変更内容記載

変更無し

5. 実習用動物の使用頭数

年 度	総頭数	総頭数/学生数	牛	馬	豚	犬・猫	実験動物(げっ歯類)
平成 14	2,729		51	2	53	186	2,439
平成 15	1,519		65	4	26	164	1,260

変更内容記載

変更無し

6. 実習用動物の代替応用の有無

年 度 代替応用の有無

平成 14 有 ・ 無 (該当する方に○)

平成 15 有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

7. 学生による授業評価システム導入の有無

7-1. アンケート

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 15 年度後期に講義及び実習・実験・演習の全ての科目について、学生による授業評価をアンケートで実施した。今後前後期において年 2 回実施することとした。

7-2. 任意

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

7-3. 評価公表

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

各科目の集計結果は、学内 LAN に掲載し、だれもが閲覧できる状況にある。ただし、自由記述の項目については、各科目担当者だけに配付することとした。

7-4. 改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

学生評価に対しては授業始めにアンケートに対する回答を次年度実施することとした。

8. 卒業論文(課題研究)の発表方法

8-1. 全体発表会

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

8-2. 論文の開示・展示

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

卒論は2日間教員へ開示していたが平成14年度から学生への開示もしている。

9. 授業科目の年次配当と授業計画(シラバス)の内容と更新状況

9-1. 年次配当の検討

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成15年度入学生から新カリキュラムで教育を実施、年次配当を偏りのないように変更した。

9-2. シラバス毎年更新

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

新カリキュラムの導入にあたり内容を変更した。

9-3. シラバス更新時の対応

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

シラバスは毎年科目担当で検討し変更があれば教務委員会で整理訂正している。

10. 授業方法の改善状況

10-1. 環境整備の改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

IT教育に対応できるよう、各教室の教育機器を整備した。

10-2. 教員組織の改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

10-3. 授業方法の改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

IT 教育に対応できるよう、各教室の教育機器を整備したことから、パワーポイントを利用して授業が多くなった。

10-4. 成績評価の明示や改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

11. 単位互換制度の有無

11-1. 国内大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

11-2. 放送大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し。

11-3. 国外大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

12. 他大学および他施設との教育協力体制の有無

12-1. 国内大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更なし

12-2. 国内他施設

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

専門学外実習の実施により家畜保健所、家畜共済等専門実習に協力をいただいている。

12-3. 国外大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

専門学外実習を学術交流協定校(ペンシルバニア大学)で実施している。

13. 卒後教育および生涯教育制度の有無

13-1. 学部・院研究生

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し。

13-2. 附属動物病院研修獣医

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し。

13-3. 科目等履修生

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し。

13-4. 学会研修会講習会

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し。

14. 社会的ネットワークの状況

14-1. 産学交流

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

14-2. 地域交流

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し。

14-3. 国際交流

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

全北大学(韓国)と学術交流協定を結ぶために準備をしている。

15. 倫理教育の取組み

15-1. 生命観・倫理観養成の教育

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成15年度入学生適用のカリキュラムから、「獣医倫理・動物福祉学」の科目を立ち上げ取り組んでいる。

15-2. 職業倫理教育の体系化

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

16. 実践・実務能力を醸成する教育

16-1. ケーススタディを考慮した授業

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成14年年度から産業動物臨床実習、小動物臨床実習で症例を用いた実習を行い、学生と教員で症例検討を通して教育をしている。また、平成15年度からは新カリキュラムへの変更から1年次に産業動物臨床基礎実習を自由科目として設け、動物病院入院した症例牛を教材として教育を開始した。

16-2. ディベートを考慮した授業

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

16-3. フィールドワークを考慮した授業

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成15年度から新カリキュラムで専門学外実習を設定し、獣医師の職域における実習を必須化した。

16-4. 少人数教育の実施

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成14年度からは、英語教育が4クラス編成で、臨床系実習については、1班4人前後の少人数教育を行っている。

17. 創造的な教育プロジェクトの実施

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

獣医学分野における感染症診断・解析技術に関する教育体制の確立、環境毒性学実習に関する教育体制の確立をするため、プロジェクトを立ち上げて実施している。

18. 教育満足度調査

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

IV. 自己点検・評価体制

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1. ファカルティディベロップメント(FD)委員会

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 15 年度は委員会設置を検討し、次年度から活動開始を予定している。

2. FD 委員会活動内容

2-1. 教員相互の評価

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

2-2. 学生による授業評価

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 15 年度後期授業から全学的に統一した様式で実施を始めた。

V. 教育の国際化対応

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

教育の国際化対応として

1. コミュニケーション手段への配慮

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

2. 国外の大学との単位交換

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

3. 国外の大学との遠隔授業

有 ・ (該当する方に○)

変更内容記載

変更無し

VI. 獣医師国家試験の合格状況

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

年 度	受験者数	合格者数	合格率
平成 14	152	126	82.9%
平成 15	146	133	91.1%

変更内容記載

変更無し

日本大学 生物資源科学部 獣医学科

獣医学教育の充実における短期改善目標の達成度調査

調査票

(平成16年9月実施：私立獣医科大学協会)

大学名・学部名・学科名

日本大学生物資源科学部獣医学科
(回答責任者：学科主任 渡部 敏)

I. 教育の理念・目的・目標について

1. 平成14(2002)年6月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1-1. 理念・目的・目標の達成へ向けての平成14年度、平成15年度における改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

獣医学科(以下本学科)は、人類の福祉と生命科学の発展に貢献できる人材を育成・輩出することを主な目的として教育・研究指導を行っている。この目的・目標の達成に向けて、動物病院の増築並びに動物医科学研究センターの新築を決定し、平成17年3月末の完成に向けて建設中である。また、本学科の理念・目的・目標を教育に十分反映させるため、平成16年4月入学の学生から教育カリキュラムを変更した。

1-2. 大学の個性・特徴の明示

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

総合大学・総合学部にも所属する本学科の個性・特徴等は、入試案内パンフレット、ホームページ、受験生向けの雑誌並びにオープンキャンパスや進学相談会を通して明示している。

2. 公表方法と周知への取組み

2-1. 学内(教職員・学生)への公表

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科は、学部案内、学則(抜刷)及び学部要覧の配布、またホームページの公開によって、教職員へ並びに学生に教育の理念・目的・目標の周知を図っている。また学部案内やホームページに本学科の学術研究上のトピックスを掲載し、公表内容の充実を図っている。

2-2. 学外への公表

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科は、学部案内及び学科ホームページによって、教育の理念・目的・目標を学外へ積極的に公表している。特に、本学科ではホームページの充実に力を注いでおり、作成を専門業者に委託している。その予算は平成14年度から計上し、さらに、オープンキャンパスにおける本学科紹介ポスターの制作についても平成15年度から予算化が図られている。

II. 教育・研究・事務組織について

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1. 教育組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

1-1. 教育の組織

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

平成 14 年度から本学科を構成している基礎・臨床・応用の 3 部門に、外国人非常勤講師を 3 名委嘱し、国際化に向けた獣医学教育とその教育組織の充実を図っている。さらに、平成 15 年度には中国の研究施設における本学科学生への技術教育とその履修単位取得に関する協定の締結に向けて準備がなされた。

1-2. 教員の適正配置

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科では教員の 55 名体制に向けて、公募等により適正な教員数の確保に努めてはいるが十分な成果を上げるには至っていない。なお、本学科では女子学生の占める割合が増加しており、女性教員の採用・配置が課題であったが、平成 14 年 4 月 1 日より女性教員を採用し、臨床系分野に配置した。

1-3. 学生収容数と在籍学生数の比率

年度	学生収容数	入学定員	教員数	支援者数	在籍学生数
平成 14	720	120	44	12	928
平成 15	720	120	48	17	906

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科の学生収容充足率は 1.15 を目標に実践し、適正化に努めている。

1-4. 実験実習の人的補助体制

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

大学院学生をティーチング・アシスタント (TA) として、平成 14 年は 12 名、15 年は 17 名を採用し、学部学生に対する実験・実習等における教育支援体制の充実を図っている。

1-5. 教育活動の評価システムの確立

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

学生による授業評価アンケートは全教員が実施し、各教員の教育改善に利用している。この授業評価アンケートの実施率の向上には一層努力しており、ほぼ全教員が実施しているが、本システムのさらなる活用については現在学内委員会で検討中である。

2. 研究組織の平成 14 年度、平成 15 年度における改善

2-1. 研究の組織

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科に基礎を置く大学院獣医学研究科の教員が主体となって、学術フロンティア共同研究プロジェクトを立案し、文部科学省平成 16 年度私立大学学術研究高度化推進事業に申請した。本プロジェクトは選定されて、現在、その研究拠点となる動物医科学研究センターが新設中である。完成すれば本学科の一層の教育・研究組織の充実が図られる。

2-2. 研究費配分

年 度 個人 グループ

平成 14 1,060,000 円

平成 15 1,060,000 円

変更内容記載

研究費は、本学科の全教員（助手以上）に等分に配分され、1 人当たりの研究費は 106 万円であり、研究環境の充実が図られている。

2-3. 科学研究費補助金

年 度 申請数 採択数

平成 14 24 11

平成 15 30 9

変更内容記載

本学科では科学研究費補助金の獲得率の増加を図るため、各教員は積極的に科学研究費補助金に申請する努力を図っている。

2-4. 研究助成金

年 度 申請数 採択数

平成 14 10 5

平成 15 9 7

変更内容記載

本学科教員は研究の推進を図るため学内の研究助成金の獲得について、積極的な応募を行っている。

2-5. その他の外部資金

年 度 申請数 採択数

平成 14 21 21

平成 15 16 16

変更内容記載

学外からの競争的外部資金の導入についても、本学科教員は積極的に応募を行っている。

3. 事務組織の平成14年度、平成15年度における改善

3-1. 事務の組織

変更内容記載

本学科では懸案であった学科事務室を設置し、事務の組織化を図った。

3-2. 職員の適正配置

変更内容記載

学科事務室に副手1名および臨時職員1名を配置し、教員の事務的負担の軽減に努めている。

Ⅲ. 教育課程の充実度

平成14(2002)年6月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況、特に獣医学教育の国際化水準へ向けての改善

1. カリキュラムの改善

変更内容記載

本学科では獣医学教育の国際化、国際基準を考慮した臨床教育の充実に取り組み、約2ヶ年を費やしてカリキュラムの改訂を検討した。平成16年入学生から全学生に付属動物病院における臨床ローテーション実習を必修とした。さらに、基礎・臨床・応用の各部門に毎年3名の外国人非常勤講師を採用し、分担講義を実施することによって教育の充実を図っている。

2. 開講科目数と総単位(時間)数

教 養 科 目		専 門 科 目				総 計					
開講科目数	単 位 数	開講科目数	単 位 数	開講科目数	単 位 数	開講科目数	単 位 数				
必須	選択	必須	選択	必須	選択	必須	選択				
6	63	12	117	46	44	92	55	52	107	104	172

変更内容記載

変更なし

3. 専門科目別授業時間数

実証分野		応用分野		基盤分野		関連分野		総 計	
開講科目数	単位数								
28	45	17	30	32	53	16	28	93	156

変更内容記載

変更なし

4. 実習時間数

実証分野		応用分野		基盤分野		関連分野		総計	
開講 科目数	単位数								
9	10	8	9	12	13	0	0	29	32

変更内容記載

変更なし

5. 実習用動物の使用頭数

年度	総頭数	総頭数/学生数	牛	馬	豚	犬・猫	実験動物(げっ歯類)
平成 14	1783	1783/928	60	3	120	320・30	1250
平成 15	1222	1222/906	50	1	250	152・44	725

変更内容記載

各実習科目間において実習用動物を融通するローテーションを組むことによって実習用動物の使用総頭数は減少した。

6. 実習用動物の代替応用の有無

年度 代替応用の有無

平成 14 有 ・ 無 (該当する方に○)

平成 15 有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

外科学実習では代替臓器を導入した。

7. 学生による授業評価システム導入の有無

7-1. アンケート

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

全教員が学生による授業評価アンケートを実施するように学科として指導している。アンケートの項目について、その改善を検討しており、より適切な授業評価が実施できるように改革を図っている。

7-2. 任意

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

7-3. 評価公表

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

現在、本学科では学生による授業評価アンケートは各教員の授業の改善に利用するなどに留めている。自己点検の性格上、公表の義務は課していない。しかし、受講学生に対してその評価を公表している教員も一部いる。この姿勢は評価公表への第一歩と考えられ望ましいこと考えている。

7-4. 改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

学生による授業評価のアンケート項目の検討を行っており、この評価システムがさらに効果的なものになるように改善を図っている。また、評価結果の公表、さらにはファカルティ・ディベロップメントに用いる方策について学部の学務委員会等で検討中である。

8. 卒業論文(課題研究)の発表方法

8-1. 全体発表会

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

卒業論文の全体発表会は従来から実施してきた。最近では、本学科のホームページに各学生の論文テーマを公表し、5年次学生を主体に下級学年の学生が発表会に参加しやすいように配慮している。

8-2. 論文の開示・展示

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

各学生の卒業論文の本体は開示・展示していない。しかしながら、各学生の論文要旨は製本し公表している。また、論文テーマについてはホームページにおいて公開している。

9. 授業科目の年次配当と授業計画(シラバス)の内容と更新状況

9-1. 年次配当の検討

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科における臨床教育を充実・国際水準へ近づける努力を行ってきた。5年次・6年次において、付属動物病院におけるローテーション臨床教育を可能にするために、専門斉一科目の一部を下級学年に移行した。

9-2. シラバス毎年更新

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科では獣医学に対する社会の要請並びに欧米の先進諸国の獣医学教育を反映させて、絶えずカリキュラムの見直しを行ってきた。カリキュラムの変更、並びに教育内容の微細な変更・改善については毎年行っており、それに合わせてシラバスも毎年更新している。

9-3. シラバス更新時の対応

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

シラバスの更新科目については、授業開始時のガイダンス等を利用して受講学生に変更を周知させている。

10. 授業方法の改善状況

10-1. 環境整備の改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

教育効果を上げる目的で、視聴覚教材を用いた教育を有効に実施し、ほぼ全ての講義室にパソコン対応の器機を学部レベルで導入した。

10-2. 教員組織の改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

一つの授業を複数の教員が担当するオムニバス方式の授業形態をとる学科目の増加に伴い、教員間の連繫を密接に行う努力をしている。また、教員数の増員は本学科の重要課題として位置づけて対応しているが、十分な成果を得るには至っていない。

10-3. 授業方法の改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

現在のところ、学生による授業アンケート結果を参考にして、各教員の自助努力による授業方法の改善が精力的に図られている

10-4. 成績評価の明示や改善

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

成績評価基準の明示は全教員がシラバスに記載することで徹底を図ってきた。さらに、現在は及第成績をA・B・Cの3段階としているが、欧米の基準に合わせて4段階方式(GPA)を平成17年度より導入することを決定した。

11. 単位互換制度の有無

11-1. 国内大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科を基礎に置く大学院獣医学研究科では、神奈川県下の大学と連携した「神奈川県内の大学間における学術交流協定」を締結している。現在、本学科ではこの制度を利用している学生はいない。

11-2. 放送大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

--

11-3. 国外大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

現在、本学科が単位互換を実施し、または実施することを決定している国外大学は、米国のワシントン州大学 1 校と中国の研究施設 1 ヶ所である。なお、本学部では学術協定校をはじめ海外の大学で履修した科目について単位を認定する制度が設けられており、すでに実績がある。
--

1 2. 他大学および他施設との教育協力体制の有無

12-1. 国内大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学部では COE プログラム並びに学術フロンティアなどの教育協力体制が存在している。そのほか、各教員が独自で国内他大学の教員との教育協力体制を強化する努力を行っている。

12-2. 国内他施設

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

COE プログラムならびに学術フロンティアなどの教育協力体制が国内の他施設との間で存在している。さらには各教員が教育・研究活動の向上を図るため個人レベルでの教育協力体制を構築する努力を図っている。
--

12-3. 国外大学

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科が所属する生物資源科学部は海外の数大学と学術協定を締結して、大学院学生や学部学生の研修、教員の共同研究を展開している。本学科ではワシントン州立大学、サンパウロ大学の 2 校が主体となっている。

1 3. 卒業教育および生涯教育制度の有無

13-1. 学部・院研究生

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科に基礎を置く付属病院において、診療業務とは別に主に開業臨床獣医師を対象にしたセミナーを毎月開催している。このセミナーは、卒業教育として有効に機能しており、日本獣医師会の生涯教育プログラムとしても認定を受けている。

13-2. 附属動物病院研修獣医

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

附属動物病院には、前期 2 ヶ年、後期 2 ヶ年の計 4 年間研修する有給研修医制度を設けている。本制度により、現在、月額支給額 15～20 万円の研修生 10 名が在籍している。本制度は国内の大学附属動物病院のなかで初めて導入されたものである。現在、動物病院の増築工事が進行中であり、拡張に合わせて有給研修医の増員を検討中である。

13-3. 科目等履修生

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

科目等履修生については学部レベルで制度化されており、本学科においても毎年、数名がこの制度を利用して在籍している。

13-4. 学会研修会講習会

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

動物病院ではセミナーを初め各種のシンポジウムを公開で実施しており、卒業教育の一環として有効に機能している。これらのセミナー・シンポジウムのさらなる充実・展開を図っている。

1 4. 社会的ネットワークの状況

14-1. 産学交流

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学には研究成果並びに技術移転等を積極的に推進するために、TLO として国際産業技術・ビジネスセンター (NUBIC) が設置されており、本組織の有効利用が図られている。

14-2. 地域交流

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学部では市民講座、公開講座、理科実験セミナー、資料館公開、公民館共催講座などを通して地域との交流を図っている。現在、これらの活動のさらなる活性化が学部レベルで検討されている。

14-3. 国際交流

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学部は海外 5 大学と学術協定を締結している中で、本学科は米国の大学 1 校と中国の研究施設 1 ヶ所において学生の単位履修を認定している。また、本学科学生教育においては、毎年 3 名の外国人非常勤講師を委嘱し教育・研究の交流を図っている。さらに、本学科の教員も個人的なルートで海外の研究機関との教育研究の連繫を図っている。

15. 倫理教育の取組み

15-1. 生命観・倫理観養成の教育

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

学生の職業倫理観の醸成の必要性から、そのための授業科目を新設した。

15-2. 職業倫理教育の体系化

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

15-1 に関する教育を具体化する目的で、新設科目である獣医倫理・動物福祉学を必修科目として体系化した。

16. 実践・実務能力を醸成する教育

16-1. ケーススタディを考慮した授業

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科における臨床系学科目、応用系学科目の多くはケーススタディーを用いた授業の充実を図っている。さらに、基礎系学科目における演習などにおいて、ケーススタディーを導入する試みが始められている。

16-2. ディベートを考慮した授業

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科ではディベートを主な教育手法とした学科目は存在しない。しかしながら、演習科目等においては、教員・学生間の2方向授業を試みる教員もおり、将来的には主要教育手法としてディベートが導入されることが期待されている。

16-3. フィールドワークを考慮した授業

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科における臨床系学科目並びに応用系学科目の多くにおいて、フィールドワークの拡大・充実が図られている。さらに、インターンシップとフィールドワークの連繫を模索している。

16-4. 少人数教育の実施

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

従来から、実験・実習に関しては少数教育の強化・徹底を推進してきた。現5年次学生のカリキュラムに反映されている臨床系のローテーション教育をさらに具体化したものである。

17. 創造的な教育プロジェクトの実施

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

数年前から動物医科学センター構想が立ち上がり、16年度の文部科学省の学術フロンティアに採択された。この成果は、創造的な教育・研究プログラムが評価された結果であると思料する。

18. 教育満足度調査

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

教育満足度調査としては単独では実施していないが、学生の教育満足度については授業評価アンケートによって各教員が満足度の把握に努めている。

IV. 自己点検・評価体制

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

1. ファカルティディベロップメント(FD)委員会

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

現在のところ、本学科内にも学部内にも FD 委員会は組織されていないが、FD 委員会設置に向けて、具体的な検討に入っている。

2. FD 委員会活動内容

2-1. 教員相互の評価

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

現在のところ、FD 委員会は組織されていないが、学部の FD 構想には教員間の相互評価が含まれている。

2-2. 学生による授業評価

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

現在のところ、学生による授業評価は教務課が窓口になり、教員各自の自己点検の意味合いが強い。現在、設置が検討されている FD 委員会が機能すれば、この委員会が教員の授業評価の受け皿になるものと理解している。

V. 教育の国際化対応

平成 14(2002)年 6 月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

教育の国際化対応として

1. コミュニケーション手段への配慮

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

Local Area Network (LAN) の充実を図り、海外とのコミュニケーションインフラの拡大を努めている。また、学生に対する国際化対応 (コミュニケーション) にはネイティブ・スピーカーによるキャリアイングリッシュ講座を学部レベルで開設した。

2. 国外の大学との単位交換

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学科においては公式な単位互換協定が米国ワシントン州立大学獣医学部との間で締結されており、5年次学生を主体に夏期休暇を利用して30～40名の学生がこの制度によって単位を修得している。

3. 国外の大学との遠隔授業

有 ・ 無 (該当する方に○)

変更内容記載

本学部においては海外の大学との遠隔授業は実施していないが、毎年、3名の外国人非常勤講師を招聘している。大学レベルでは衛生やインターネットを用いた遠隔授業が検討されている。

VI. 獣医師国家試験の合格状況

平成14(2002)年6月の横断的評価記載内容における改善、改革進捗状況

年度	受験者数	合格者数	合格率
平成14	148	119	80.4%
平成15	142	127	89.4%

変更内容記載

獣医師国家試験の合格率向上を目標に教員研修会を開催し、意見交換を行い、教育研究指導の改善を図っている。また、6年次後期授業スケジュールの見直し、学生の受験環境の改善・確保を図っている。